



# 同窓の絆を日本の絆へ

## 第47回 旭川北高等学校同窓会

旭川市中・市高・北高同窓会／総会・懇親会

と き／2012年**8月11日**(土) 午後6時～

ところ／旭川グランドホテル

3階グランドホール【旭川市6条通9丁目】



写真／旭川北高等学校現校舎(昭和61年頃)

写真／旭川北高等学校旧校舎(昭和31年12月頃)

# 校 歌

mf 明るく普通の速さで

あ た - ら し - き ぶ ん か - の は な  
 の さ ん - ら ん と や が て か ほ ら む み  
 づ - き - よ - く や ま - む ら さ き に め  
 ぐ - り - た - る ま な び の に は よ あ  
 ふ る る よ ろ こ び い ぎ て を と り て や  
 む な き - あ ゆ み に ま こ と を と め む

# 校 歌

木村五一 作詞  
 津田 甫 作曲

## 一、

新しき文化の華の  
 燦爛とやがて薫らむ  
 水清く山紫に  
 めぐりたる学びの庭よ  
 溢れる歡喜いぎ手を把りて  
 止むなき向上に真理を尋めむ

## 二、

逞しき腕の力は  
 遠つ代の祖に承けたり  
 汗あゆるその勤勞の  
 成せる郷土豊けき穰  
 とこしへ榮行くこの世に生きて  
 止むなき教養清純を讃めむ

## 三、

かぐはしき緑の夕  
 白瑤の樹氷咲く朝  
 眉秀で魂澄む子等が  
 まどおして譽を謳ふ  
 見よ見よ祖国の前途は新  
 止むなき希望に光明を添へむ

同窓の絆を日本の絆へ

もくじ  
Contents

同窓会長あいさつ	1
学校長あいさつ	2
平成23年度会務・決算報告	3
同窓会規約	4
札幌・東京同窓会から	5
第36期恩師の近況	6
特集「同窓生の活躍」	12
同窓生から	25
今春の進路状況	27
北高NOW（部活動報告）	28
同窓会役員及び幹事	33
実行委員長・次期当番期あいさつ	35



## 「文武両道」



北海道旭川北高同窓会長  
(北高18期)川島 崇 則

今年も同窓の皆様方のご協力のもと第47回同窓会が盛大に開催されることとなりました。当番期として昨年からの念入りに準備を進めてこられた石川拓さんを実行委員長とする36期の皆さんをはじめサブ期の方々のご努力に心より敬意を表するところがあります。

今年旭川に初めて学校(寺子屋)ができてから120年になります。旭川北高は旭川市が開基50周年を迎えた1940年に市立中学校として創立されましたが、その後70年余にわたって旭川における高校教育の中核を担い、卒業生は国内外のあらゆる分野で活躍しています。現在は進学重視型単位制高校として7年目を迎え、道内外の難関大学を中心に毎年100名を超す国公立

大学現役合格者を出し、昨年度も合格者は133人、現役合格は108人のほりました。首都圏の難関私立大学にも多数が合格していることは喜ばしい限りです。

さて、旭川北高は文武両道に力を入れ、部活動加入率が毎年9割を超えているのが大きな特色です。

今年7月28日に開幕するロンドン五輪には49期卒業の久保倉里美さんが前回の北京五輪に続き陸上の400m障害に日本代表として出場を果たしています。本日の同窓会総会の日にはすでに五輪でのレースも終わっていますが、北高の卒業生が世界の大舞台で日の丸を背負って戦うことは本当に素晴らしいことです。久保倉さんは北高2年の時から陸上競技を始め、それをきっかけに一

流のアスリートに育っていききました。北高時代に競技者としての基礎を作った久保倉さんの存在は、部活動で後に続く者の励みにもなったはずですよ。同時に北高同窓会の誉れでもあります。

本日の同窓会総会・懇親会では、数年ぶり数十年ぶりという懐かしい出会いもあることでしょう。過ぎ去った時間を飛び越え高校時代に戻り、ほっとひと息つける瞬間ではないでしょうか。同窓会での再会が、いつまでも皆様方の心に、良い思い出として残っていくことを願ってやみません。



## 北高の近況について



北海道旭川北高等学校長  
伊藤 一 正

同窓会の皆様には日ごろから大変お世話になり、衷心より感謝申し上げます。おかげで、本校の教育活動は活発さを失わず、生徒たちは勉学に部活動に日々励んでおります。

学業では、本年三月末時点で判明した大学受験の結果は良好で、道内の難関大学を中心とした国公立大学に一〇六名の現役合格者を出しました。本校は平成十八年に単位制を導入しましたが、間口が一つ減ったにもかかわらず、安定して毎年こうした状況にあることは誠に喜ばしい限りです。献身的な教師集団の指導と、それに応えるべく頑張った生徒たちの努力がうまくかみ合ったことが大きな要因であると思います。

また、部活動も大変盛んで、部局への加入率は九割を超えています。

私は十年ほど前に、仕事で道内の高校を一〇〇校近く訪問しましたが、六間口程度の規模の学校で部活動加入率がこれほど高い学校はありませんでした。本校生が放課後、部活動に取り組んでいる時の表情は真剣そのものです。こうして体力や集中力を養うことは将来必ずや生徒たちの人生において生きてくるはずで、まさに校訓にあるとおり、「自らを律し、新しいものを創り出し、自らの向上を図る」ための最適の場とも言えましょう。

また、学校におけるこうした教育活動を支えるPTAも全国の注目を浴びています。特に年二回発行の「旭川北高PTAだより」は、その完成度の高さが評判となり、北海道PTA連合会の役員の方々も、お会

いすると異口同音に本校のPTAだよりの話をもちだされます。本当にありがたいことです。

さらに北高会から奨学金によるご支援を毎年いただき、生徒たちの将来に大きな支えとなっています。これからも相変わりがせぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学校は、PTA及び同窓会などの関連団体と一体となって発展していくものであると言われます。現在の旭川北高校はそうした面できわめて良好な状況にあると思います。

関係者の皆様には今後、より一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。併せて本校同窓会の健勝をお祈りいたしております。

平成23年度会務報告

平成23年

- 4月8日 ● 入学式 (川島会長・尾崎副会長)
- 4月19日 ● 役員・幹事長会議(ホスター・チケット配付)  
(旭川グランドホテル)
- 6月24日 ● 会計監査 (旭川グランドホテル)
- 6月24日 ● 第4回役員会 (旭川グランドホテル)  
(学校祭対応・総会)
- 7月9・10日 ● 北高等学校祭(同窓会露店参加)
- 8月13日 ● 第45回同窓会総会 (旭川グランドホテル)  
ゴルフコンペ  
学校祭収益金贈呈
- 9月14日 ● 第1回役員会 (旭川グランドホテル)
- 10月1日 ● 当番期引継会 (旭川グランドホテル)
- 10月15日 ● 東京同窓会(川島会長他4名・伊藤校長参加)
- 10月28日 ● 札幌同窓会(川島会長他5名・伊藤校長参加)
- 12月1日 ● 同窓会入会案内発送

平成24年

- 1月29日 ● 第2回役員・幹事長会・新年会  
(旭川グランドホテル)
- 2月29日 ● 同窓会入会式(全日制・定時制)  
ノースウインド19号発刊
- 3月1日 ● 卒業式 (川島会長他4名)
- 4月8日 ● 入学式 (川島会長)
- 5月12日 ● 役員・幹事長会議(ホスター・チケット配付)
- 6月20日 ● 会計監査
- 6月20日 ● 第4回役員会 (旭川グランドホテル)
- 7月7・8日 ● 北高等学校祭(同窓会露店参加)
- 8月11日 ● 第46回同窓会総会 (旭川グランドホテル)  
ゴルフコンペ  
学校祭収益金贈呈
- 10月12日 ● 札幌同窓会31回総会(札幌ガーデンパレス)

旭川北高同窓会平成23年度一般会計決算書

◎収入の部

(単位：円)

区分	予算額	決算額	比較増減	摘要
1 繰越金	425,054	425,054	0	
2 同窓会費	1,182,000	1,136,000	▲46,000	
(1)入会金	528,000	488,000	▲40,000	244名 × 2,000円
(2)終身会費	654,000	648,000	▲6,000	216名 × 3,000円
3 雑収入	181	210	29	貯金利子
合計	1,607,235	1,561,264	▲45,971	

◎支出決算

(単位：円)

収入額	支出額	残高
1,561,264	1,256,543	304,721

残高304,721円は次年度へ繰越

◎平成23年度特別会計決算書

(単位：円)

収入の部		支出の部		残金
第46回総会準備金返還	300,000	第47回総会準備金貸付	300,000	次年度へ繰越 929,050
北高第12期御祝儀(43名)	417,000	御招待者(北高12期生)会費	215,000	
貯金利子	180			
前年度繰越金	726,870			
合計	1,444,050	合計	515,000	

◎支出の部

(単位：円)

区分	予算額	決算額	比較増減	摘要
1 総務費	1,145,000	984,493	▲160,507	
(1)事務費	20,000	30,500	10,500	消耗品費
(2)会議費	300,000	263,511	▲36,489	役員会、幹事長会等開催費
(3)通信費	36,000	45,665	9,665	切手、はがき、電話
(4)印刷費	10,000	20,000	10,000	会議開催案内状等印刷費
(5)慶弔費	30,000	20,000	▲10,000	香典、生花、弔電
(6)支部活動費	350,000	415,000	65,000	東京・札幌同窓会出席者旅費、活動助成金
(7)学校事務費	20,000	0	▲20,000	学校事務局謝礼
(8)後援会費	144,000	0	▲144,000	学校後援会費
(9)卒業記念品費	170,000	146,247	▲23,753	卒業生記念品
(10)後援会事業費	30,000	0	▲30,000	学校祭協力費
(11)雑支出	35,000	43,570	8,570	講演会参加諸経費、振込手数料
2 文化費	280,000	272,050	▲7,950	ノースウインド第19号印刷費、活動費
3 予備費	182,235	0	▲182,235	
合計	1,607,235	1,256,543	▲350,692	

◎同窓会資産

(単位：円)

累計額	平成23年度 積立額	平成23年度 支出額	合計累計額	摘要
9,011,212	187	0	9,011,399	積立額は郵便貯金利子

◎同窓会記念事業基金

(単位：円)

累計額	平成23年度 積立額	平成23年度 支出額	合計累計額	摘要
1,453,098	200,543	0	1,653,641	積立額は郵便貯金利子と実行委員会より寄付

# 北海道旭川北高等学校 同窓会規約

## ●第1章 総則

第1条 本会は、北海道旭川北高等学校同窓会と称する。

第2条 本会は、会員相互の親睦を図り、合わせて北海道旭川北高等学校の健全なる発展に寄与することをもって目的とする。

第3条 本会は、その事務局を北海道旭川市花咲町3丁目北海道旭川北高等学校に置く。

## ●第2章 事業

第4条 本会は、その目的達成のため、次の事業を行う。  
(1) 会員の親睦を図ること。  
(2) 会誌及び会員名簿の発行  
(3) その他本会の目的を達成するために必要と認める事業

## ●第3章 会員

第5条 本会は、次の各号に該当する者をもって構成する。  
(1) 旭川市立中学校卒業生  
(2) 旭川市立高等学校卒業生  
(3) 旭川北高等学校卒業生  
(4) (1)(2)(3)各号以外(転・退学した者)で、本会に入会を希望する者。

## ●第4章 顧問

第6条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会において推挙する。  
第7条 顧問は、役員会の諮問に応ずるものとする。

## ●第5章 役員

第8条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
  - (2) 副会長 若干名
  - (3) 会計監査 3名
  - (4) 総務部長 1名
  - (5) 総務副部長 若干名
  - (6) 会計部長 1名
  - (7) 会計副部長 若干名
  - (8) 文化部長 1名
  - (9) 文化副部長 若干名
  - (10) 幹事長 各期毎1名
- 第9条 会長、副会長は、総会において役員の中から選出する。
- 2 会長は、本会を代表し、会務を統理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。

第10条 第8条の役員のほか、各期各組から1名ずつ幹事を選出し、各期ごとに幹事長1名及び副幹事長2名を推薦し、会長はこれを委嘱する。ただし、定時制にあつては幹事長のみとすることができる。

2 幹事長は、同期を代表し、かつ統括する。

3 副幹事長は、幹事長を補佐し、幹事長に事故あるときはこれを代理する。

4 幹事は、各組の取りまとめにあたる。

第11条 会計監査は、総会において会員のなかから選出する。ただし、再選を妨げない。

2 会計監査は、本会の経理を監査する。

第12条 各役員の任期は、2年とする。ただし、任期満了後でも後任者が決定するまでは、引き続きその任にあたるものとする。

第13条 総会は、定例総会及び臨時総会とし、議決は出席者の過半数をもってし、賛否同数のときは議長これを決す。

2 定例総会の開催時期は、前年度の定例総会において決定する。

3 定例総会の運営は、各期毎の当番でこれにあたる。

4 臨時総会は、会長が必要と認めたときに、役員会の決定をもって会長がこれを招集する。

第14条 総会は、次のことを審議する。

- (1) 会務の報告
- (2) 決算の承認
- (3) 規約の改正
- (4) 役員を選出
- (5) その他必要な事項

第15条 本会の役員会は、会長、副会長、総務部、文化部及び会計部の部長、副部長をもって構成し、会長がこれを招集する。

2 本会の幹事長会は、会長、副会長、総務部、文化部及び会計部の部長、副部長及び幹事長をもって構成し、会長がこれを招集する。

第16条 役員会の議決は、出席者の過半数をもってし、賛否同数のときは、議長がこれを決する。

第17条 会員は、役員会に出席して意見を述べることが出来る。

第18条 本会には、次の部会を置き会務を分担する。

- (1) 総務部
- ア 総会及び役員会に関すること。
- イ 規約の改廃に関すること。
- ウ 本会の渉外事務に関すること。
- エ 支部の結成及び支部との連絡調整に関すること。

第19条 本会には、次の部会を置き会務を分担する。

- (1) 総務部
- ア 総会及び役員会に関すること。
- イ 規約の改廃に関すること。
- ウ 本会の渉外事務に関すること。
- エ 支部の結成及び支部との連絡調整に関すること。

第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり、翌年の3月31日をもって終わる。

第21条 事務局は、若千名の事務員を置き、本会の事務を処理する。

2 事務局員は、会長がこれを委嘱する。

第22条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

第23条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

第24条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

第25条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

オ その他庶務一般に関すること。

(2) 会計部

ア 本会の会計に関すること。

(3) 文化部

ア 会誌及び会員名簿の発行に関すること。

イ 会員の親睦を図り、文化厚生活動に関すること。

2 部会には、部長1名、副部長若干名、委員若千名を置く。

3 前項の部長、副部長及び委員は、会長がこれを委嘱する。

第19条 本会の経費は、入会金二、〇〇〇円、終身会費三、〇〇〇円及び寄付金をもってあてる。

第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり、翌年の3月31日をもって終わる。

第21条 事務局は、若千名の事務員を置き、本会の事務を処理する。

2 事務局員は、会長がこれを委嘱する。

第22条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

第23条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

第24条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

第25条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

第26条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

第27条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

第28条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

第29条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

第30条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

札幌  
東京から……

## 思い出

札幌支部同窓会会長  
武田 寛  
(北高16期)

中島会長が不慮の死を遂げてから、九ヶ月が経ちました。私の一歳上の姉が中島氏と同期であり、また、父親同士が旧国鉄に勤めていたことから、中島氏の温厚なお人柄はよく耳にしておりました。姉の話によく出てきたのは、「中島さんは、できの良くない生徒の面倒を良く見ていた。」という話でした。私が高校三年のときに、OBの高校訪問で東京大学経済学部合格した中島氏が、受験の心構えについてお話ししてくれました。奢り高ぶらず、謙虚に自分の経験談を話していたのが印象的でした。昨年七月の札幌支部同窓会幹事会に、中島会長は大変な時期であったと思いますが、普段と変わりなく穏やかに議事を進行されておりました。JR北海道の苦悩を、一人で背負って旅立たれました。天国ではどうぞゆつくりとお休みください。

さて、私が北高に入学したのは昭和三十九年です。末広町二条から夏は

チャリで、冬は歩いて通学していました。当時は個性豊かな先生が多数おりまして、誰が名付けたのかは定かではありませんが、チョン(数学の上田先生、語源不明)、ニタリ(英語の新妻先生)、消防車(数学の小柳先生)、ニグロ(国語の池澤先生)、馬糞(世界史の馬場先生)、馬(国語の武田先生)等々。上田先生に至っては数学の試験を返すときに、「〇〇君、たったの〇点。」今は個人情報保護法があり、これに抵触しそうですね。当時は、東高を追い越せ、追い抜けて、学校全体がそういう機運であったので、我々も、高校ってそんな所かと思ひ、一心不乱に勉強もしましたが、青春真只中で、何をしても訳もなく楽しかったですね。仮装行列、マラソンで完歩同盟を結成し体育の西村先生に目玉を食らったこと、フォークダンス、クラスの間と石狩川の川原でのジグリスカン、関西への修学旅行、石狩川を、自転車を曳きながら二人で無言で歩いて帰ったこと等々。

叶うならば、もう一度あの頃に戻って青春を謳歌したい……。

## 「50年」

旭川北高校東京同窓会会長  
丹保 冬司夫  
(北高13期)

新名所スカイツリーに行ってきた。但し、地元に住む孫がツリーのオーブンセレモニーに出演するのを、麓の1階舞台まで見に行っただけだが(老体で見上げるには首・腰が痛い) 上京して今年で五十年目。古い写真や、映画「三丁目の夕日」等を見るにつけ、その間の東京の変貌ぶりには改めて驚くばかりである(自分自身の変貌にも)。都内を縦横に回っていた都電・トロリーバスも一路線を除きすっかり姿を消し、地下鉄網が整備され、また高層建築物や、諸施設が数多く建ち並ぶ等、近代都市へと大きく変化を遂げた。スカイツリーには、そのうち昇ろうと思ってみたら東京タワーにも、まだ昇っていない事に気がついた。五十年もいるのに。他の高層建築の東京都庁・六本木ヒルズ等々にも、また上野動物園や諸施設にも。まだまだ先が長い？ ことから、これからゆつくり楽しめと云うことか。

五十年といえは、我が十三期は今

年七月初旬に、「卒業五〇年目の修学旅行」を実行する。東京勢主に内・外地から23名して千歳空港に向かい、旭川主体の道内組と合流しバスにて洞爺方面観光、北湯沢温泉で第一夜を過ごし、翌日は小樽界限観光後、地元入りし高砂台温泉にて第二夜、そして翌日はゴルフ・富良野方面観光に分かれて解散予定。途中からの参加も含め75名との修学旅行は(酒学旅行になりそうだが)それぞれ変化を遂げた50年目の仲間との再会・交流を今から楽しみにしている。次は古希旅行か。

昨秋、第15回「東京同窓会」を無事終えた。従来の銀座から飯田橋のホテルに場所を移し一期〜三期まで前回は十数名増の百三十五名の参加を見ることが出来、例年のごとく大いに盛り上がり交流・懇親を深める事が出来た。一六・一七期の出席が無かったのが残念な事であり、また若い？ 二四期以降の勧誘が今後の継続の為に重要な課題である。次回の第一六回は、来年平成二五年秋に開催を予定しており、スカイツリー見学を兼ね在京の仲間会にきてみませんか。



1組



回顧

増田 秀通

二年次、我がクラスであった高橋憲嗣君より原稿依頼を受け、四苦八苦している次第。

昭和47年4月、芝桜で有名な町の滝上高校に就任し、放課後の補習に明け暮れていたようなものであった。次の北見柏陽高校での5年間は、荒くれの応援団と共に、実に楽しく過ごした。

さて、本校での4年間は、応援団の顧問として、特に当時の野球部の活躍には目を見張るものがあり、お陰様で応援団にも全道大会の決勝戦での体験をさせてもらった。

もう一步というところで、全国を逃してしまった。この時のメンバーの一人が、一般入試で早稲田大学にチャレンジし、一日10時間を超える猛勉強の末に現役合格したのであった。現在も、ノンプロの世界で野球にかかわっている。

我がクラスは、騒がしいクラスであったが、何かある時には意気投合し、結束力をもっていた。そんなせいか、クラスでカップルが生まれ、後に結婚式に招待された。今では彼

らの子が北高生であるという。一年次から二年次にかけて、クラスが変わる中で、3年間、我がクラスで過ごした気の毒な生徒もいたが、現在ではある学校の学年主任であり、二女の父親でもある。

さて、その後、札幌東高校に転勤し、再び放課後の講座、補習で15年過ぎたようなものであった。平成9年3月、糖尿病で北大病院に1か月入院、平成14年1月、脳梗塞と診断され、新札幌脳神経外科に1か月半ほど入院した。そして、考えに考えた末に、3月、定年に3年残して退職した。

現在は、両手両足のしびれが酷く、頭の働きも順調ではないが、表向きは元気で1か月おきに両病院に通っている。

我が家では、チワワの「チワちゃん」と文鳥の「トリちゃん」がいて賑やかである。

では、諸君の御健康と御活躍を祈念する。

2組



回顧と近況

佐藤 正志

私は北高に22年間勤務し、退職16年目になります。時々、北高の前を車で通ることがありますが、特に春などはアーチエリー団体出場記念として寄贈されて、校庭に移植された桜の苗木は（福島県三春の滝桜）今ほどのくらい大きくなって咲いているのかと思いつながら通り過ぎたりしております。2年前、アーチエリー部卒業20年目の部員の集まりに行ってきましたが、一人一人が熱心に練習に取り組み、頑張っていた当時と変わらない雰囲気を見せられ、昔にもどされた気持ちで帰って来ました。

私は前任校の富良野高ではスキー部の顧問として、また現役の選手として毎日の指導にあたってきました。私はアーチエリーについてはまったくの門外漢であり、指導に苦労しました。しかし、この生徒達なら方向性を示したなら自主性を重んじた指導で十分に行けると確信してあたってきました。生徒もやる気を前面に出し、夏場は遅くまで練習に取り組み姿が思い出されます。一番苦労し

たのは毎年3月に行われる全国高校選抜大会に向けて、能力のある生徒達をいかに遜色なく他県と同じ条件で競技をさせたかったというものでした。そのためにも冬の練習を夏と同様に外で射る環境をつくることに集中しました。生徒も最大限の力を発揮してくれたので苦労も報われた思いでした。

さて、36期卒業の皆さんは社会で職場の中で大いに活躍していることと推察しております。私はこの学年を最後に部活の関係で外に出ることが多くなり、担任を外してもらうようになりました。この度久しぶりにアルバムを開いて見えています。3年2組の生徒一人一人を見ていると、当時の思いが浮かんできます。教職を離れ、いかに自分が、意欲が無く、趣味のない人間であったかという思いで、何年かはパークゴルフに行ったりしていました。現在は膝の具合が悪く、庭の小さな菜園と町内の役員をしながら平凡な暮らしをしております。皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

3組



第47回  
旭川北高等学校同窓会に寄せて

渡邊 政美

昭和58年1月1日付けで利尻高校から突然、旭川北高校(以下北高)に異動となった。利尻高校では忘年会が突如送別会となり同僚の冷たい視線を浴びた。さらに途中人事の事情もわからずに赴任した北高ではあまり歓迎されることもなく、すぐに担任を持たされた。木造校舎から近代的校舎へ、360人の生徒数から1320人へ、さらに就職指導から進学指導へと環境も教育内容も大きく変わり、教科指導や学級経営など全ての教育活動に緊張感があつた。その時に担任をした生徒が今回の幹事ということであり、時の流れを強く感じるとともに大きな楽しみでもある。

北高には9年3ヶ月の勤務であったが、8年間は学級担任であり卒業生を4回も持つことができた。卒業生からは近況報告を兼ねての年賀状をいただくが社会人として活躍している様子などを知るのには大きな喜びである。そのような素晴らしい教え子を数多く持つことができたのも北高のお蔭であり幸せに感じている。北高では、生徒指導部・生徒会・

進路指導部など、生徒と直接関わる分掌を担当した。そのことにより半人前の教師であった自分が教師として生きていく覚悟や教師としての基礎を身につけることができたと思っ

ている。見方を変えれば、北高の生徒が私を一人前の教師として育ててくれたとも言えることができる。そのためか北高のことを思い出す時はいつも生徒との思い出と結びついている。その後、平成4年3月、北高が1学級減となったために札幌西陵高校へ異動となった。さらに、雄武高校に教頭として赴任し札幌東高校教頭を経て士別高校・森高校・札幌稲雲高校そして現在の岩見沢東高校と校長として4校目を迎えている。このままで行けば、来年3月には定年を迎えることになる。教職生活を振り返るにはもう少し時間があるが、恐らく私の教職生活の中心には北高で過ごした9年3ヶ月があるものと確信している。

最後になりましたが、北高の益々の隆盛と同窓生のご多幸を心より祈念いたします。

4組



懐かしき北高

蓬田 秀泰

教員生活38年、九校の学校に勤務させて頂きました。私がお世話になった地域で一番長かったのが旭川市です。北高六年、南高三年でした。北高に赴任したのが昭和五十八年四月、教員として元気の良い頃だったと思います。ですから担任、生徒指導部、合唱部、吹奏楽部を同時に持つことが出来たのだと思います。よく体が持ったものです。

その頃の北高生は自主自立の精神に富んでおり、自分達の力で物事に積極的に取り組む気概を持っていたように感じます。たくさん思い出から幾つか取り上げてみます。文系進学クラスの担任でしたが、クラスの特徴を出すために大井学年主任の配慮で、私のクラスに音楽系の進学者を集めてくれました。今でもその時一生懸命に頑張っていた生徒達の顔が浮かびます。生徒指導部では遅刻指導に奮闘したことを覚えています。結構遅刻者が多く、大きな声を出したり、定時制の食堂に集めて指導したり今では懐かしい限りです。

また、私の専門は歌でしたから、本格的な合唱部を持たせて頂いたのは嬉しかったです。三十名程の部員でしたが熱心で優秀な生徒が多く、楽しく活動することが出来ました。吹奏楽部は自主自立の精神で頑張ってくれました。部員も多く、演奏技術も高かったのですが、楽器の購入や練習場所の確保が大変だった事を思い出します。

特筆すべきこととして卒業式歌のことがあります。当時から流行として色々な歌が歌われるようになっていきましたが、北高では凛として「仰げば尊し」を歌い続けていました。素晴らしい校歌と共にその歌声が今でも耳に残っています。

退職した今は、母校の大学校友会活動や自分の専門を生かした演奏活動、それに合唱部の指導等に精を出しています。まだ暫くは隠居できそうにありません。お世話になった旭北高並びに同窓会の益々の発展と、三十六期生各位のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

5組



『旭川北高十四年間の雑感』

土本 信一

「三・一一」東日本大震災と原発事故は史上最悪の混乱と危機をもたらしました。あれから一年以上経つというのに過酷な状況は今も尚、続いております。出口の見えない不況、破綻寸前の財政、深刻な雇用不安、格差拡大、弱者切り捨て、危ない年金や医療保険、高齢化・少子化の急速な進行、孤立死・餓死等々嫌な言葉が新聞紙上に踊る。昨今、日本という国はこのさき大丈夫なのだろうか。未来が見えず暗澹たる思いにさせられることの多いこの頃です。

昭和四十七年に本校に赴任しました。この時期、神武景気以来二十年近く続いた高度経済成長の終焉期といえます。まだ好況感に浸っていた時代でした。二月の札幌オリンピックで日の丸飛行隊がメダルを独占した感動と興奮の余韻もまだ残っていた時期でした。七十年安保闘争を前に全国的に吹き荒れた学園紛争の嵐が本校にも及び、昭和四十四年にはヘルメットに覆面姿の生徒が「卒業式粉碎」を叫んで校舎に乱入し、校地内で抗議集会を開くなど混乱が続き、対応に大変苦慮したと聞いております。私が赴任したのはこうした混乱も治まり落ち着きを取り戻した時期です。生徒は都会的でスマート、前庭に池をあしらいたハトが飛び交った木造

校舎は味わいのある雰囲気を感じておりました。十四年間北高にお世話になりましたが、その間、五回卒業生を送り出しました。本会当番幹事の三十六期生はその最後の卒業生であり、昭和六十一年かれらの卒業と同時に私も転勤で北高を去ることになったものです。感慨深い学年です。

忘れ難いのはかれらが入学した五十八年夏、野球部が北大大会決勝戦まで進出したことです。延長十五回の末、旭龍谷に敗北、甲子園の夢は破れましたが、貸し切りバスを仕立てて帯広に駆けつけ、生徒・父母・教職員一体となって大声援を送り、選手も一打逆転サヨナラの場面をつくるなどして球場が熱狂し興奮に包まれたものでした。それから二十二年後、北高は二度目の甲子園出場を果たし初戦で岩国高に敗退したものの善戦しました。私も既に退職して学校とは無縁でしたが、旅行社企画の応援ツアーに参加し応援団の片隅で大声援の一部を担ってききました。夢がかないました。三十代から四十代前半の時代を良く学校で良き生徒と学ぶことができたことを今も感謝しております。旭川北高の益々の発展を祈念しております。

6組



第36期の皆様へ

横山 茂

自宅にある卒業アルバムを出して、アルバムを久しぶりに見てみました。アルバムを一枚一枚めくりながら、当時の頃の記憶が蘇ってきました。皆さんと一緒に楽しく過ごしていた頃を思い出しました。

退職して、月日がたちますが、今私は、旭川の自宅にいます。数年前から体調がすぐれず、楽しみにしていた同窓会には、残念ながら出席することができません。大変申し訳ない気持ちで一杯です。第36期の皆さんが、今回の同窓会でまた一段と絆を深めることを、心からお祈りしています。最後に、ぜひお暇があったら遊びにきてください。



7組



北高同窓生に期待して

三上 隆一

私が平成八年三月に北高を定年退職してから十六年目を迎えます。年月の経過とともに学校現場との関わりが薄らいでいくような気がしますが、しかし今でも、現役の北高生や北高OBの方々の活躍がマスコミ等で報道されたりすると、無関心ではいられず、かつての同僚だった先生や同窓生の方々と連絡を取り合い、その話題を肴にして、大いに盛り上がり、旧交を温め合ったりしています。

私の北高への赴任は昭和五十五年です。当時の北高は、普通科八学級英語科二学級の大規模校で、生徒数も一、〇〇〇人を超えていて、施設、設備等もぎりぎりの中の活動で、決して十分な恵まれた学校環境とはいえませんでした。従って、卒業式なども、式場の体育館では、全生徒を収容できず、二年生のみを出席させて、卒業生を送り出すような状態でした。しかし、生徒の学校生活に対する姿勢は、常に前向きで、未来を見据えた熱気と躍動的な行動力に満ち溢れているような気がします。

北高も創立から七十年を超える歩

みの中で、社会の中核として、旭川市を始め、北海道、全国を舞台に活躍される人材を多く輩出してきました。今では、国際社会の場で、その中心になって活躍されている方々も多く見られるようになってきています。これからは、ますますグローバルな視点からの活躍が北高OB生に期待されていると思います。

今の日本は、政治の貧困、経済の国際化、社会福祉のあり方等、先が見えない解決しなければならぬ課題が山積みしています。これらの問題は一朝一夕で解決できないと思います。しかし、これらの課題を解決していく先導者としての役割を、北高OB生に担って頂きたいと期待しています。

8組



私の日常

高橋 功

先日、還暦を迎えた教え子達のク  
ラス会があった。再就職の話などさ  
れている時、古希を迎えて、すでに  
無職の私に「平常は何をしています  
か」と質問されて、「読書三昧です  
よ」と返答をした。

退職する頃から、もう荷物のよう  
になっていた本の始末を始めた。今  
は図書館から1回につき10冊借りて、  
2週間で読む。1年で200冊以上  
読んでいる。期限があるから、1日  
で500ページ読むこともある。

そんなことから、背中は丸くな  
るし、老けるのも速い。読書をする  
体力がなくなるのが心配で時々山登  
りをする。近郊の標高531メート  
ルの山に登る。老若の山ガールもい  
れば、遠足の子どもたちもいたりす  
る。山では行き交う人に、「こんに  
ちは」と挨拶をする人がいて、私も  
応答する。小学生の低学年遠足に会  
うと、「こんにちは」「こんにち  
は」とかわいい響きの連続になる。  
私は家にいる時は、テレビに向かっ  
てぶつぶつ言うことはあるが、まず  
言葉を発する必要のない生活だから、

こんな時は、何十回も「こんにち  
は」を言つて大満足である。  
図書館から借りる本は多種多様で  
ある。

吉村昭の小説「生麦事件」は、事  
件の顛末を、この作家特有の書き方  
で、克明に淡々と記しているだけの  
ようだが、時代が動く時の軋む音が  
聞こえるようであった。

「歎異抄（解説付き）」では、他  
力本願ということの説明が、「善人  
なほもつて往生をとぐ。いはんや悪  
人をや：」を初めとして、何度も出  
てくる。煩惱を所持している者なれ  
ば、念仏の一つも唱えておくべきか  
この後、どの位の本が読めるのだ  
ろう。冊数にして、たったの200  
0冊位か。何となく淋しいけれど、  
好きなだけ読書三昧をします。



9組



『どもり』と『英語教師』

成田 匡 功

第四十七回旭川北高等学校同窓会を  
お祝いし、心からお喜び申し上げます。  
私の小学生当時の昭和二十二年頃を  
思い浮かべると、当時は、戦後の混乱  
は多少おさまった感がありました。が  
まだ世情不安な時代であり、国民にと  
つては、今では考えられないほど貧し  
く辛い時代でした。しかし、心はそれ  
ほどずさんではいなかったので、そ  
外に出て友達と日が暮れるまで遊ぶの  
が日課であり、遊びを通して色々なこ  
とを覚え、友情を深めたものであった  
ところで、人間の一生を左右するよ  
うな巡り合いや動機というものは思わ  
ぬところに潜んでいるものである。

私が教員を目指すようになったきつ  
かけは、小学生の頃、田舎町の映画館  
で観たニュースであった。飛行機のタ  
ラップから降りてくる姿のマッカーサ  
ー元帥の強烈なイメージと、その時初  
めて耳にした彼の英語の響きは、まる  
で未知の世界の人、魅惑の言葉として、  
幼い私の心に、深く刻み込まれたので  
した。中学校に進むと初めて習う英語  
の授業では先生の発音のすばらしさ、  
教材内容の新鮮さは、マッカーサー元  
帥に抱いたあの印象と重なると共に、  
これまた未知の世界を旅している気分  
になりました。

私が英語の授業に特に引かれた動機  
には、実は、小学生の頃より、ある「負  
い目」が絡んでいました。ある同級生  
の「どもり」のまねをしてしまつたの  
自分も「どもり」になつてしまつたの

だ。そのため日常会話に加え、授業で  
は特に、本を朗読するときの「ども  
り」は苦痛そのものであった。しかし、  
その「どもり」にも救いの科目が二つ  
あった。不思議なことに、英文を読む  
にしても歌を歌うにしても「どもり」  
が伴わないのである。このことが英語  
と音楽を一層好きに、得意にさせた要  
因となり、しかも将来の英語教師を目  
指す布石ともなつたのである。

さて、私の「どもり」のその後はと  
いうと、高校一年の後半頃に、誰かに  
教えられたというのでなく、自分で腹  
式呼吸法的発想でほとんど治つてしま  
つたことを記憶している。今では年の  
功も加わり、この種のトラブルは消え  
失せている。  
さて、現代に目を点すれば今や社会  
情勢に伴う教育事情諸般の変容など  
により教育は一層多様且つ多難な時代を  
迎えている。これからの教育現場は教  
育内容・方法に一層の柔軟性を持ち、  
その上に、カウンセラー的心のケア指  
導をも兼ねたものが求められてきてい  
る。

最後に、旭川北高同窓会が今後共  
親睦・交流を深められ一層のご発展を  
ご祈念申し上げます。  
九組の皆さんへ  
体調がすぐれず、楽しみにしていた  
同窓会に出席できず申し訳ない気持ち  
です。どうぞ良き思い出作りの盛り上  
がった会になりますように、祈念して  
おります。

10組



最近の『心境』

荒谷 昭夫

私の枕元には愛用のアンティークな目覚し時計があります。『旭川北高等学校六〇年度卒業・三年十組一同』の文字が刻まれています。

同窓会の案内が届いて、十組の皆さんをなつかしく思い出しています。入学式の日、座席の列に収まった男子を意識して「少数を尊重するのが民主主義である」と説いて、男子中心の学級運営を心に決めました。彼等は元氣滲刺として強い個性を持っていました。しかし、私の方針はわずか数週間で踏みにじられました。体育の時間は教室が女子の更衣室になり、昼休みの男子は一番奥の階段で弁当を食べているのを目撃することになりました。あれから30年、彼らが同窓会の幹事を務める年齢になったのかと感無量です。

私は、1999年、旭川北高校で退職しました。20年間お世話になりました。教員生活の半分以上を北高で務めさせていただき、心の優しい、真面目な生徒と共に学んだことは誇りであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

私事になりますが、一昨年、妻が急に逝ってしまいました。余命を宣告された妻の看護は切なく、去つてからは何事も虚しく、冬の寒さは寂しさを募らせました。この歳にして『切ない』『虚しい』『寂しい』の言葉の深さを実感しました。同時に、私より早く、若くして、かけがえない家族を失った人々の心情に共感できるようになりました。

昨年、33年間過ごした旭川から札幌に転居しました。旭川は大好きな町でした。今、残り僅かとなった人生を『どう生きるか』模索しています。

『第47回旭川北高等学校同窓会』の成功を心から祈念しています。

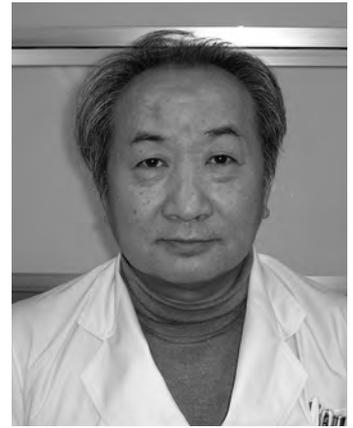


同窓会誌に寄せて  
～最後の砦と呼ばれて  
(私の歓びと苦悩)～

禎心会病院  
脳疾患研究所

上山  
(かみやま)

博康  
ひろやす  
第17期



一昨年の秋、私は卒業後40年も経った母校、旭川北高等学校の門をくぐりました。昭和42年に卒業して以来、初めてです。創設70周年の記念講演会に招かれたのです。卒業生としては大変な名誉です。私はこの高校に入学した際には、新入生挨拶を任され、卒業式では、総代として、卒業証書を授与されました。一見すると、正にエリート中のエリート！ということになると思いますが：そんな私ですが！、この高校での3年間は、あまり良い記憶がないのです。中学時代、模型飛行機に夢中だった私は、性的に未熟だったのか、いわゆる初恋という記憶が欠如しており（要するに、ガキだった？）、この高校に入ってから、初めて女子を意識するようになりました。しかし、2年生の時から、理科系という枠の中で、全員男子！という隔離された環境もあって、女の子の友達など皆無！であり、個人的に話をした子など、ほとんど無く、廊下や体育の授業など好みの女生徒を見つけても、相手に気づかれないように見つめることしか出来ない、意気地なしでした。性的妄想はそれなりに強くて、いつか自分が性的犯罪を犯すのではないかという漠然とした恐怖を抱いてまし

たが、硬派を気に入り、文化祭の最後のファイヤー・ストームなどでも、皆がフォーク・ダンスに興ずる中、光が届かない芝生に陣取り、同様の仲間？と、『男がこんなこと出来るか！』などと息巻いてました。本当に嫌なら、とつと帰れば良いものを：完全なエセ硬派です。このやせ我慢のエセ硬派は今でも全く進化せず、患者が差し出す礼金（謝金）も、本当は喉から手が出ているのに、大見得を切って断って、後で『あーあ、あれをもらってれば、新しいパソコンを買えたのに：』などと、決まって後悔するのに、いつも必ず断って：本物の「エセ硬派」です。でも、そんな自分が、ちよつと好きだったりするので、恐らく、死ぬまで同じことを続けることでしょう。そんな私がテレビに出るなんて、考えたこともありませんでした。しかし、どのような経緯で私のことを知ったのか？平成5年に、みのもんとさんの司会での「スーパードクターを探せ！私を救った名医たち」という2時間番組の中で、他の数名の各分野の先生と一緒に出させてもらいました。私の部分は正味15分でしたが、ディレクターの腕が良かったせいで、大変な反響でした。不細工

な私でも、テレビの中ではまあ、まあで、まるで自分ではないどこかの偉い先生のような取り扱いに、照れくささもあって、面映い気持ちでしたが、深夜一人で、録画を見なおしては、大学を追われ、地方の病院で営々と手術をこなしていた私にとつて、一種のご褒美？と思つて、自分ながら満足してました。当時57歳になつており、まあ自分の人生の中ではこれが最後の花道なのかな？などと考えてました。しかし、その翌年の、NHKのプロフェッショナルという番組で取り上げてもらつてから、全国からいろんな相談の手紙やメールをもらうようになりました。最初は、そのような患者さんを一人でも多く救いたい！という気持ちから（少しチャホヤされて調子に乗つて）、一生懸命に返事を書いたり、手術が必要と思われる患者さんは、入院・手術してきました。そのうちに、多くの問題が出て参りました。他の病院で正当な治療を受けられない！と訴えていた患者さんの中には、いわゆるモンスター・ペイシャントと思われる患者さんもいて、入院時に看護師さんが病状を聞きに行つても、『全て上山先生に話してある。お前ごとき看護師に話す必要はな

い！』とか、『俺は上山先生の特診患者だ。特別扱いにせよ！』とかの無理難題を押しつける患者さんが、増えて、病棟の雰囲気が非常に悪くなったことがあります。実は、手紙での相談にしても、その90%以上の患者さんは、返信を求めながら、返信用の封筒や切手を同封していません。切羽詰まっている状況で、相手側に配慮する余裕すらなくなっているのかもしれないが、中には、自分の携帯の番号を記載して、すぐに携帯に電話して欲しいというものまであります。日本の健康保険制度は、国際的に高い評価を受けており、全ての国民が安い自己負担で、高度な医療を受けることができる素晴らしいシステムです。更に、日本には「赤ひげ先生」伝説があり、医師たる者、お金に頓着せず、全ての生活を患者のために生きるべき！という、全く、患者からすれば都合の良い考えがあります。しかし、実際に赤ひげ先生のドラマを見ると、全ての患者からお金をもらわない訳ではなさそうです（実際にそうならば、医療を続けることなど不可能です）。お金のない貧しい人々に、代金を求めないだけです。その変わり、その貧しい人々は、自分たちの食べる分



も削って、お米や、野菜などを赤ひげ先生のところへ運んできます。お互いがお互いに出来ることをして、相互に助け合っているのです。しかも、現在はどうかでしょうか？患者さんは一方的に、医療に「赤ひげ」を求めるのに、自分に出来るお礼を、どれだけの患者が考えるのでしょうか？アメリカなどに臓器移植のために渡航する際、数億円という莫大な募金を募っているのが実際です。一方、日本では、素晴らしい健康保険制度の下、医療はタダ！という妙な考え方が浸透してしまっ、前述の赤ひげ理論と相まって、医療に携わる人間は、全くの無料奉仕で、自分たちの健康を守るべきであると考え

ているとしか思えない言動が目立ちます。更に、欧米並に訴訟することが当たり前になってきたこと、エセ正義感ぶったマスコミが、一方的な報道を繰り返すことで、それに拍車をかけて、産婦人科や小児科などを筆頭に、萎縮医療・萎縮手術になってしまっているのが実情です。

G7やG8と呼ばれる先進諸国の中で、GNPに占める医療費は、日本が8%と最低です（他の国は12〜18%）。更に、人口あたりの医師数も最低です。更に、この数年は、200億の医療費を削減し続けて来ました（59兆円の道路財源は温存しつつ！）。憲法にも保障されている基本的生存権（25条）を無視するよいうな、姥捨て山医療となりかねない後期高齢者医療制度も未だに継続されたままです。こうして現状を書いていても、いたたまれなくなるような惨状です。しかし、患者の人生、生命を請け負って、患者の命を脅かす病魔と闘うのが私どもの仕事であり、それこそが私どもを支えるプライドです。こんなひどい状況だからこそ、私どもはプライドを持って、医療の本質である「患者のため！」を実践すべきなのです。前述のような感謝する心を忘れたモンスターペ

イシエントや一方的な相談を持ちかけてくる患者達への憤りは、自分の中に、「してやっっている！」感謝すべきだ」という、どこか高所からの視点や思い上がりの心があるからなのです。愚かにも還暦を過ぎた今になって気づいたことがあります。若い頃、僕は誰にも負けない脳神経外科医を目指して、人一倍手術に参加して、少しでも早く上手な手術が出来るように頑張っていました。実験室のねずみを繁殖させ、毎日夜中までそのねずみを使って、血管吻合の練習も行っていました。他人と比較して、自分がより上手な手術できることが得意であり、自信の裏づけにもなっていました。外科医であるからには、誰よりも上手な手術をするこゝと、イコール、良い医者証であると信じてました。しかし、たくさんの挫折と失敗を繰り返しているうちに（その多くは、自分の思い上がりや過信から出たこと）、今、私が気づいたこと、それは医師が目指すべきこととは、病気を治すこと！ではないのかもしれないということです。外科医である以上、最高の手術を行うことを目指してきた私が、ある時ふっと気づいたのです。自分はあまりにも治療に目が向きすぎて、肝心

のことが見えなくなっていたのでは  
ないか？だから手術があまり上手で  
ない医者馬鹿にし、非難し、いか  
に自分の治療が優れているのかを誇  
示してきました。その医者としての  
価値観を患者にも押し売りしていた  
ように思います。どこにも真似の出  
来ない高い技術レベルの手術をした  
のだから、多少の麻痺で済んだのだ  
から、大いに感謝するのが当然だ！  
と言わんばかりの傲慢に陥っていた  
ように思います。目指すものが最高  
の手術！という一点だったことが、  
僕の視野を狭めていました。真に僕  
たち医者が目指すべきは、究極のと  
ころ、患者、および家族の満足度で  
はないのか？患者は命を賭けて医者  
を信じ、手術台にのります。その信  
頼に、私どもを何で応えたら良いの  
でしょうか？これは私が生涯を通じ  
て答えを見つけないべき大命題です。

今、というよりかなり以前から、  
私の中にはいくつかのジレンマがあ  
ります。手術をすべきかどうか？ど  
のような手術にすべきかどうか？本  
当に自分の行っている医療が適正な  
のかどうか？等々―とかく自信過剰  
気味の僕は、自分の出来ること以上  
の成果を求める傾向があつて、腫瘍  
は絶対に全摘出したし、動脈瘤は  
完全なクリッピングを行いたいし、  
患者さんの悪いところは全て完全  
に治したい気持ちが先行しすぎて、と  
かく、「やりすぎ」となってしまう  
ことがあります。やりすぎて悪くな  
った患者さんを前にすると猛烈に反  
省して、次に同じような患者さんが  
来ると、前の反省から、どうしても  
腰が引けた治療方針となる傾向があ  
ります。例えば、手術が最も難しい  
脳底動脈の動脈瘤などで、無理なク  
リッピングを行って穿通枝障害など  
が生じて後遺症が残ったりすると、  
次の同じ部位の動脈瘤の患者さん  
は、どうしても腰が引けた術前のム  
ンテラ（患者さんへの説明）になっ  
てしまうのです。後遺症を強調する  
説明を行うと、多くの患者さんや家  
族の方は、手術を希望しない傾向が  
あります。その場合、経過観察とい  
うことになります。本音を言うと、  
動脈瘤の手術がすごく難しい患者さ  
んが、手術を希望せず、経過を見る  
ことになった場合、内心ホッとする  
自分がそこにいます（これで手を下  
さないで済んだという安堵感？）。  
しかし、そのような患者さんの多く  
は、破裂して死亡してしまいます。  
死亡したことを知った時、僕は激し  
い自己嫌悪に陥ります。プロである

自分が、みすみすこのような惨事に  
なることが判っていた自分が、単  
なる自己保身の気持ちから、手術拒否  
で姑息な安堵感を覚えた自分のいか  
がわしさから、猛烈に反省します。  
助かる可能性もあつたのに、自分は  
その可能性をつぶしてしまった。適  
正な医療を受ける権利すら奪ってし  
まった。たとえ、手術をして後遺症  
が残つて、患者や家族から文句を言  
われたとしても、その苦境は自分の  
せいなのだから、甘んじて批判され  
るべきではなかったのか？たとえ後  
遺症が残つたとしても、少なくとも  
その患者は治療を受けることは出来  
た訳だし、病氣と正々堂々と闘うこ  
とはできたのではないか？自分の姑  
息な自己擁護の犠牲になつてしまつ  
たのではないのか？等々―。

以上、だからとまとまりの無い  
内容になつてしまいましたが、エセ  
硬派である典型的な凡人である私が、  
マスコミに持ち上げられ、分不相応  
な讃辞を受け、偉そうにこのように  
同窓会誌に寄稿しております。多く  
の幸運もあつて、私は医者としては  
「大成功？」な人世を送っていると  
思います。更に、停年まであと2年  
となり、弟子達のサポートもあつて、  
この4月からは、札幌の禎心会病院  
脳疾患研究所の所長となり、上山博  
康脳神経外科塾を開設しました。こ  
れは、一人でも多くの辣腕の外科医  
を育成するというプロジェクトです  
が、早くも大反響・大盛況で、ます  
ます忙しくなっております。お陰様  
で、小人も閑居せず、不善も犯さず  
に過ごせております。更に、不実な  
夫ながら、熟年離婚もされず、何と  
か頑張れます。冒頭でも書きまし  
たが、私には北高時代には、あまり  
良い記憶がありません。その理由は、  
恐らく、三島由紀夫の言葉にヒント  
があるのかも、しれません。彼曰く、  
『人間という動物は、自分一人の為  
だけに生きて、自分一人の為だけに  
死ねるほど強い動物ではない。生き  
るにも、死ぬにも、誰かのため！何  
かの為！という目的が必要なのです』





ゴスペルクワイヤー  
The Soul Expression  
(ザ・ソウル・エクスプレッション)  
代表 **岡崎 朱美**  
(おかざき あけみ)  
第34期

英語科十組。潜在的な英語好きに育てていただいた大切な高校生活。クラスの殆どが進学の中、卒業後すぐにバブル時代のOL生活を謳歌！二十四歳で寿退社。普通の平凡な主婦業をしていました。ゴスペルとの出会いは平成十二年、英語曲を歌うのが好きで始めたゴスペル教室がきっかけでした。夫の転勤で旭川へ戻ってからもその熱は冷めることなく、平成十六年に現在のThe Soul Expressionを立ち上げました。その時お世話になった牧師から紹介していただいた方が、ゴスペルディレクター池末信氏です。まさに奇跡的な出会いでした。国内外で活躍しているすごい方に指導なんてと思いつつ、それでもどうしても思い描く指導者と出会いたくて、一人東京へ会いに行きました。その時池末氏は、「ゴスペルを歌うことで、皆さんの日常が豊かになると良いですね。」と言ってくれたのです。彼が率いるSOU MATICS (ソウルマティックス) は、奇跡の声を持つグループとして国内外で高く評価されていました。初めて彼ら

の歌声を聞いた時の衝撃は、今でも忘れられません。日本人では出せないと言われている発声や音域を手に入れるその指導法は、第一線のプロシンガー達はもちろん、私たち一般人までも変えてしまう素晴らしいものでした。全てにおいて幸いだった事は、私には何のキャリアも知識も無かった事でした。もし、自分に何か積み重ねてきたものがあつたら、恐らくこんな素晴らしい出会いには恵まれなかったことでしょう。高校、OL時代と、当時の価値観は今の若者には考えられないかもしれませんが、きっとこうなる！という強いプラスのイメージを持つ技は、この時代を生きたおかげかもしれません。未来への夢と希望、癒しで溢れるゴスペルのメッセージを心を込めてお届けし喜んでいただく。日常生活では味わえないプロの姿勢を肌で感じながら、自分たちの成長を実感できる「幸せなクワイヤー」であり続けたいと思います。



The Soul Expression GOSPEL CONCERT

12月2日(日) 16:00 Start  
旭川市民文化会館大ホール  
チケットは市内各所、  
ローソンチケットで販売予定

HP  
<http://www5.plala.or.jp/the-soul-e/>

## 夢を現実に

レコーディングエンジニア・  
プロデューサー

**中山 信彦**  
(なかやま のぶひこ)

第36期

### 中山信彦さんのプロフィール

1986年  
昭和61年 旭川北高校卒業  
1988年  
昭和63年 日本工学院専門学校 卒業  
1988年  
昭和63年 サウンドイン・スタジオ入社  
1993年  
平成5年 フリー契約として  
ミキサーズ・クルー参加  
2010年  
平成22年 完全フリーランスとして活動開始

東京都調布市在住



## 訪れた出会い

今の『仕事』に出会ったのは13歳のとき。このときもう決めていたのだと思います。

中学1年のときクラスにやってきたひとりの転校生。近所だったということもあり仲良しに。3人兄弟の長男だった彼の家は大きな一軒家（といっても邸宅ではなく家屋という感じ）に遊びに行ったときのことでした。玄関を上がり、いくつかの部屋を通った先に行き着いた奥の部屋の部屋には、所狭しと楽器が並んでいました。「ウヒョ〜♪」ドラムに、ベース、ギター、キーボード類とタンバリンやトライアングル、ボンゴなどパーカッションも同時に目に飛び込んできました。そしてマイクも数本。音楽が好きで演奏することも大好きだった僕は真新しい「おもちゃ」を与えられた子供のように友達に教えてもらいながらドラムを叩いたり、ベースやギターを弾いたり次々にその部屋で演奏体験をしました。その後、彼の年下の小学生の弟二人も部屋に集まり兄弟3人でのセッションが始まりました。僕は脇で見学。彼らのお父さんも音楽をやっていた影響で、小



さい頃から楽器をやっていたらしく大人以上の演奏を目の前で聴くことが出来ました。リズムがどうの、コードがどうの…。休憩時に相談し合う兄弟たち。そんな話を聞きながら、僕の視線はマイクから伸びたケーブルに。その先を追っていくと入り口の扉の外に続き小型の『見慣れない機械』に繋がっていることに気がきました。小さい頃から機械いじりも好きだった僕の興味の対象は楽器からこの『見慣れない機械』に移りました。訊ねるとそれは「ミキサー」と呼ばれるもので、各楽器の音量などを調整できるものだということを知ったのです。さらにそのミキサーからはヘッドホンとラジカセ（懐かしい響

き）が結線され、カセットテープ（もつと懐かしい）に録音するシステムが揃っていました。休憩後、曲を録音しようということになり、見学していた僕に対してラジカセの録音ボタンを押し、ミキサーの調整をして欲しいと頼まれ、結局デモテープ録音に立ち会ったのが「ミキサー」この最初の出会いでした。このミキサーを使った録音（レコーディング）はとても楽しくて、その後、彼の家（スタジオ）に何度も通うようになりました。

## 遊びが興じて

当初、ラジカセでカセットテープに録音していた小型のシステムも数ヶ月後にはオープンリール（もちろん初めて）に変更され、1本のマイクで録っていたドラムのマイクも3本に増えバスドラムやスネアにも個々にマイクを設置出来るようになり、マイクの本数が増えることでミキサーも一回り大きいものに。更に彼らのお父さんの協力により、響きを付加するエコーマシンやディレイマシンなども追加されシステムが次々に拡充されてくると、もう録音した楽器ごとにバランスを調整することが楽しくて

楽しくて。例えば、ドラムの音が大きいとリズムがはつきりして曲のテンポ感がわかりやすくなったり、ベースの音量を上げるとグループ（フリ）が出てきたり。またビートルズみたいにドラムを左に、ヴォーカルを右にとか、エコーを増やして、大瀧詠一、山下達郎も影響を受けた名プロデューサー/フィルスペクター風にも何度かマイクを重ねたり、ディレイを多用してU2サウンドを真似てみたり…。

そんなことをしているうちにプレーヤーの演奏をマイクや録音機器を使って音をミックス（調整）してレコード盤に記録される【音楽としてのサウンド】を創り上げる職業、日本ではミキサー、海外ではレコーディングエンジニア、並びにミキシングエンジニアというものがあることを知り、その頃からこの仕事に就きたいと思うようになっていました。

## 北高時代

北高に進学後は、音楽の録音をするだけでなく自らも同期の仲間とバンドを組んで学校祭はもちろん、公会堂や野外のイベントにも出演したりなど演奏する側としてもどんどん音楽に傾倒していきました。

純粋に音楽を楽しんでいた時代です。加えて今だから言えますが：期末テスト前にも関わらずライブがあるとロクに勉強もせずに、朝までヘッドフォンをしてギターの練習をしていましたね。そんな事だから成績は全くふるわず、数学の藤見先生には「授業が終わった後、休み時間にノートを持って俺のところに来るように」と言われ、ほぼ【白紙のノート】（苦笑）を毎回持参して職員室へ通っていました。（おかげで数学後の休み時間はなし…）2年生になると理系に進んだのに物理のテストでは人生初の「0点」を採って担任でもあった横山先生に呆れられたり、北高に赴任されたばかりだった美人の石川先生にも「中山君、バンドばかりやってないで少しは英語の勉強をなさなさい！」って言われてました。ハイ…。

当時、音楽を聴くのはLPレコードでしたが、1枚3千円前後したアルバム。お金がないので友達から借りたり、「貸しレコード屋」さんから新譜を借りてきては、次々にカセットに録音して同時にジャケットもコピーしていました。僕の場合歌詞カードをコピーするのではなくて、一番最後に掲載されているスタッフクレジット。これをコピーするのが

最大の目的でした。ここにはとても重要な情報が載っているのです。このスタジオで、誰が録音して、誰がミキシングして、誰がマスターリングして、ミュージシャンは誰なのか。今のうちにインターネットがない時代でしたから、この情報を蓄積していくことでアーティストとスタッフの関係性や、スタジオごとのサウンドの違い、エンジニアによる音の違いなどを聴いたりしていました。ここまで読んで頂ければおわかりになったかと思いますが、例えば一つのテーマを描こうと同じ画材を使ってもキャンバスに表現される絵は、人それぞれの好みやキャラクターが絵に出ること、また料理で言うと同じ食材や道具を使って同じ料理を作ったとしても、それぞれ味が違うように、音楽でも録音方法やそのパランスのとり方、機器の扱い方やテクニク、嗜好によって「音楽作品」としての仕上がりには各人の個性が出てくるのです。この『エンジニアとして自分なりに音楽を創る楽しさ』を中学の頃に体験したことが今の仕事に進むきっかけとなったのです。

## エンジニアを目指して上京

北高卒業後は東京の専門学校で2年間エンジニアになるための勉強を学び、そして運良くフルオーケストラ大編成の録音が可能な日本屈指の広さのスタジオを持つ、サウンドイン・スタジオに就職することが出来ました。(宇宙戦艦ヤマトのテーマ曲や当時ピンクレディーもここで録音)実はこの時、中学の頃からジャケットのコピーをすることで蓄積していたスタジオの脳内データが役立つのです。就職活動をしていた卒業間近、学校の先生から3ヶ所のスタジオから求人が届いていることをクラスの皆に案内がありました。申込みの一番人気だったのは、「おニヤン子クラブ」など当時のアイドル中心の制作スタジオ。2番目が日本の某レコードメーカー系。3番目に僕が入社したスタジオ。老舗のスタジオで、生楽器を中心にきちんとした音楽作品の制作に使用されていて、どこよりも『生音』に触れられる機会が多いそのスタジオのことを知っていた僕の選択肢はここしかありませんでした。その後、1番人気のスタジオは程なくして、そして2番人気も音楽業界の低迷と

ともに閉鎖に追い込まれることに。

就職面接で聞かれたのは「君、明るいね」、「はい、よろしくお願います!」多分これが決め手になり無事合格!

## 夢の音楽業界へ

毎日、先輩方が入社する前に掃除をしてマイクのセッティングや配線などセッションの準備をして、スタッフの皆が来ると「誰よりも先に元気に挨拶!」。譜面のコピーをして、レコーディングが始まった後も、お茶出しや、ドアの開閉、食事の注文、灰皿の交換...とにかく気配りと言葉遣いが肝要。そして終了するのは大抵明け方近く。目の下にクマをつくっても明るく「お疲れ様でした!」。全てを撤収する頃には陽も昇り、自宅に帰り少しの間仮眠してまた出社。帰ることの出来ない日もザラ。それでも明るい挨拶、誰に対しても率先した気配り。可愛がつてくれる先輩もいれば無視する先輩も。クリエイティブなんかは脇に置いて、まずは体力と精神力が必須な仕事です。その間、同期の仲間が辞め、そして名前も顔も思い出せないくらい多くの後輩が辞めていきました。このように



して最初はアシスタントとして数日間、掃除からお茶くみなどをやりつつ、いろんな音楽や機械の知識を勉強し経験を積みながらメインのエンジニアを目指すことになりました。

「エンジニア」という言葉からは、一見するとつまみだらけの複雑怪奇な機械を扱う「技術職」のように見えますが、多くのスタッフと連携して作品創りをしていかなければならない「接客業」であること、クライアントであるお客さんやアーティストに気に入ってもらうことから仕事が始まる。1丸一日、さもなければ1週間、1



カ月と時間を共にするわけですからエンジニアとしての技術のみならず人間として互いのコミュニケーションがとれないと仕事にはなりません。入社後は、蓄積された脳内データ通り、このスタジオでは様々なジャンルの音楽を録音する仕事があり、ポップスやロック、ジャズ・クラシック・演歌をはじめとする作品群はもちろん、映画のサウンドトラックやCM音楽、長唄や民族音楽まで、とにかく多岐にわたる音楽に生で触れ、またそれまで懂れでしかなかったジャケッ

に記載されていた名前の方々と一緒に仕事をさせて頂けたのは大きな経験であり財産になりました。その後も多くの作品に携わったことで、オリコンのチャート上位や、ビルボードジャパン・チャートでも自分の手がけた作品が1位を獲得しましたが、実は今までで、一番嬉しかったのは中学の頃から大好きだったロスのスタジオミュージシャンで結成された「TOTO」のメンバー（ステイヴ・ルカー/デヴィッド・ペイチ/マイク・ポーカー/ジェフ・ポーカー）に出会えたことが、自分の最高の思い出です。ドラムのジェフ・ポーカー亡き後は、現メンバーのサイモン・フィリップス（マイケル・シエンカー・グループ、ホワイトスネイク、ザ・フー等に参加）とも別セッションで仕事を共にできたことも大きな喜びでした。彼らの出す音は今まで聴いたこともないような響きやグループで最高のサウンドでした！その体験は脳裏にしっかりと焼き付き、今でも思い出すとその時の興奮が蘇ります。それまでの様々な失敗や、数多くの辛かったことも全て吹き飛びました。あの時の喜びと感動を胸に今も続けているところもありますね。

## 夢に飛び込む 若者へ

最近ではコンピュータの発達と共に音楽の制作スタイルも変わり、自宅にパソコンとソフトがあればひとりでも音楽が創れるようになりました。楽譜のデータを入力し高音質でオーケストレーションを奏でることだって出来てしまう環境が簡単に手に入れます。そのため、以前のように大きなスタジオに多くのミュージシャンが一堂に会してレコーディングする機会は減ることもなり、これは日本だけではなくアメリカや、イギリスに於いても同様で、ビートルズはじめ数多くの名盤を生み出したあのアビロードスタジオさえも売りに出されてしまう状況に至っています。1曲単位のダウンロードやパソコンを使って高音質でのコピーが氾濫する中、音楽業界全体としても一部を除き状況とは言えませんが、携帯プレーヤーの進化などにより、逆に以前にも増して音楽を聴くことの機会は増えています。音楽制作に携わる身としては制作予算が限られる中でも良い音楽をみなさんに聴いて楽しんでもらえるよう日々精進しています。

併せて現在は、若い才能の育成に

も携わり専門学校でも特別講師として自由な感性を大事にし、才能を伸ばすことに厳しく臨んでいます。今回の執筆にあたり、当会誌は同窓会のみならず北高在学生も手にすることを聞き、旭川北高OBの一人として夢を持つことの大切さと厳しさを少しでも理解してもらえたらと思いい寄稿させて頂きました。日々の競争が激しいエンターテイメント業界に飛び込むには自分なりのスキルを上げつつどんな場面でもプレッシャーに押し潰されず自分自身を見失わないようにすることは特に重要になります。これはたとえ職種が違っても共通する部分かもしれませぬ。参考にして頂けたら幸いです。

今後は個人的な活動として、音楽をベースに海外のアーティストと共に作品を創ったり、また日本から世界に向けて創作活動をやっていきたいと思っています。まだまだ夢を追い続ける人生です。みなさんも自分の進むべき道を模索しながらでも一歩一歩進んでいって下さい。

最後にこのような機会を与えて頂いた、西山編集長と藤本編集委員にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

# HTBアナウンサー 谷口 直樹

(たにぐち なおき)  
第45期



## 『高校野球』

高校時代は、剣道部でした。学校の隣は北海道大会の舞台・スタルヒン球場なのに、剣道部。体育館からも隔離された格技場で剣道。それだけに、メジャースポーツ・高校野球へのひねた想いも強く、「1回戦から全校応援ってなんだよっ！」やらなんやら、悪態をつけてました。卒業アルバムにも、友人と二人で応援席を離ればーつとしている写真が載っているし。

それが今やすっかりHTBの高校野球担当(というか、スポーツ全般ですが)。社会人になった2000年の夏、札幌南高校が北海道大会で快進撃。才能豊かな中学生を集められるわけでもない公立の進学校が、強豪私立を次々に倒し、甲子園切符を掴み取る姿に「高校野球っていいなあ」と、素直に思えました。もう数年早く気付けていれば、在学中に母校を熱烈応援できたのに…。

社会人になって丸12年。その間に10回以上、甲子園に行きました。初

めて実況を担当した2001年の帯広三条。優勝候補相手に9回、ギリギリ一杯で追いついた(延長で負けたけど)2002年の札幌第一。勝っていたのに、勝利が目前だったのに、降雨ノーゲーム。翌日の再試合で敗れた2003年の駒大苫小牧。でも、その悔しさが、次の年、北海道勢初の全国優勝という形で実を結びました。2005年は駒吉の夏連覇。ゆうちゃん、まーくんの決勝再試合、2006年も忘れられません。と、全国的に見ても高校野球の「歴史」と呼べるシーンに立ち会うことが出来ました。ただそれでも、多くの人が「久しぶりだね」で片づけて

しまつても、2004年の北海道代表チームのことも、決して忘れることができません。旭川北高校、44年ぶりの甲子園。その試合、僕はスタンドで後輩たちのプレーを観ていました。僕は、北海道代表の担当。実況は、HTBの他のアナウンサーが担当していました。だからこそ、後輩たちにお願したい。もう一度、甲子園へ！その時はきつと、熱すぎるくらい熱く実況しちゃうんだろうなあ。



加藤千恵さんのプロフィール

1983年 北海道旭川市に生まれる  
 2001年 短歌集『ハッピーアイスクリーム』出版  
 2002年 旭川北高校卒業  
 2002年 立教大学文学部日本文学科入学  
 2006年 同大卒業

主な著書に  
 『ハッピー☆アイスクリーム』、  
 『ハニー ビター ハニー』、  
 『さよならの余熱』、  
 『写真短歌部 放課後』、  
 『あかねさす 新古今恋物語』  
 など

加藤 千恵  
 (かとう ちえ)  
 第52期



# 十年が経って

離走の違いを思った。

北高在学中だった二〇〇一年に、初めての自著である、短歌集『ハッピーアイスクリーム』を出版させていた。約十年が経つ。以来、歌人として、また数年前からは小説家としても活動している。

わたしは基本的に、自分で書いたものを読み返すことはほとんどしない。ポリシーというようなかっこいいものではなくて、単に恥ずかしくなってしまうからだ。

ずっと書きつづけられていることをありがたいと思う。執筆は個人的な作業だけれど、それが雑誌に掲載されたり本になったりするには、数えきれないほど多くの人たちの助けに支えられている。

それが例外になったのは、昨年『ハッピー☆アイスクリーム』（集英社文庫）の刊行が決まったときだ。『ハッピー☆アイスクリーム』は、冒頭に述べた、『ハッピーアイスクリーム』に五つの短篇小説を加えたものだ。十代のときに書いた歌を読み返すのは、ずっと見ないで引き出しにしまっていたアルバムを開く気持ちと似ていた。

今年の四月には、初となる本格長篇小説を出版した。『その桃は、桃の味しかない』（幻冬舎）というタイトルのもので、原稿用紙二百枚以上の長さだ。小説としてはさほど長いわけではないけれど、わたし自身が書いたものとしては最長で、その分苦勞も大きかった。短歌やショートストーリーにおいては、瞬発力が重要とされる気がするけれど、長さが加われば、求められるのは持久力に変わっていく。短距離走と長距離

覚悟を決めて読み返してみると、自分で言うのもなんだけれど、結構おもしろいな、と思えた。逆に十年という長さの年月があったせいかもしれない。

共感できるものもあったし、あまり納得できないものもあった。あえて順番を変えず、そのままの形でおさめたのは、当時のわたしの気持ちを残しておくことができたならと



思ったからだ。  
十七歳のわたしは、毎日たくさん  
のことを考えたり思ったりしていた。  
好きな人にうまく気持ちを伝えられ  
なくて悲しんだり、友だちのささい  
な優しさに大喜びしたり、模試の点  
数の低さにショックを受けたり。  
今の二十八歳のわたしは、そうし  
た日々の感情をうまく思い出せない。  
ただそれは、悲しいことじゃないと  
わかっている。当然だし必然だ。  
そんなわけないけどあたし自分だ  
けはずっと16だと思ってた。  
人生はこれからなどと気が重くな

ることは聞きかされている。  
これらの短歌を書いたとき、わた  
しは変化するのを恐れていた部分があ  
った。年齢を重ねることも、抱え  
ている気持ちが揺れてしまうことも、  
不安で仕方なかった。それらを受け  
入れることができるようになっただ  
けでも、十年という月日には意味が  
あったのかもしれないと思うし、思  
いたい。  
加筆した短篇を書きながら、十七  
歳のわたしと話すことができればい  
いのに、と何度か考えた。どんな  
話をしていたか、どんなことを思っ

ていたか、直接訊いてみたいような  
気がして。  
一方で、書き進めながら、忘れて  
いた自分の高校時代の思い出のかけ  
らを拾い集めている部分もあった。  
小説に書いているのは必ずしも実体  
験ではないけれど、それでも高校生  
のときにおぼえたわずかな鼓動のよ  
うなものは、作品の中で刻まれてい  
るだろうと思う。それだけでなく、  
実際に今のわたしの中に残りつづけ  
ている鼓動も。  
忘れてしまったことがたくさんあ

る一方で、忘れていない気持ちもある。  
『ハッピー☆アイスクリーム』を出  
版したときに、短歌に興味がない人  
たちが読んでくれることを願ってい  
た。そうした人たちが、わたしの歌  
を読んで、短歌って意外とおもしろ  
いな、というふうに思ってくれたな  
ら、どんなに素敵なことだろうと。  
十年経って、同じ気持ちで『ハッピ  
ー☆アイスクリーム』を送り出すな  
んて予想外だった。いつだって予想  
外な人生を過ごしている。





## ★高校時代

高校では大人しく目立たない生徒でした。北高にもチア部はありますが、当時（今もかもしれませんが）チア部からは「かわいい子と明るい子以外お断り」な空気を感じてしまい、到底手の届かない世界でした。

高校の部活には所属せず、中学から続けていたダンス教室に通っていました。

担任の先生を主人公にしたマンガを描いてクラスの女子の間で回し、笑いをとる変な生徒でした。ちなみにタイトルは「ナイスアタック伝説！のりピー」です（笑）

## ★チアとの出会い

大学について調べている時から「この大学に合格したらチアリーダー部に入ろう」と決めていました。

写真やホームページからもバリバリの運動部という雰囲気が伝わってきました。

### 中村志穂さんのプロフィール

- H17 旭川北高校卒業  
金沢大学文学部人間学科入学  
金沢大学チアリーダー部入部
- H21 豊平チアリーディングチーム  
（札幌）に所属
- H23 東川町で就職
- 6月 大雪チアリーディングチーム  
結成
- 10月 大雪こどもチアリーディング  
チーム結成

入学後、キャンパス内で初めて先輩方のチアの演技を見た時の気持ちは忘れません。ダンスだけでなく、スタンツ（組体操）といって人を人の上にさせたり、人を空中に飛ばしたり…そんなハードさを感じさせない元気な笑顔。

想像とは違うものでしたが、「すごい！私もやってみたい！」と思い、早速見学に行き入部を即決しました。

実際に入部してみると、華やかな演技の裏には地道な練習の繰り返しがあることを知りました。

イベントで演技をしてお客さんの笑顔に元気をもらい、大会で強豪チームの演技を見る度、もっとチアを好きになっていきました。

辛いこともありましたが、辞めようと思ったことはありません。地元を離れて一人で暮らす私にはチームメイトが家族のような存在になっていたし、自分からチアをとったら何も残らないと思っていました。四年間チアをやり尽くして卒業し、就職で北海道に帰ってきました。

## ★チーム結成

地元の近くに帰ってこられたことはとても嬉しかったのですが、残念ながら旭川にはチアがほとんど浸透しておらず、社会人チームもありませんでした。

仕方なく引退を考えていましたが、やっぱり簡単に諦めることはできませんでした。

どうして旭川にはチアのチームがないんだろう…なら自分で作ってみよう。それが大雪チアリーディングチームの始まりでした。

最初はネット上でメンバーを募集することから始めました。決してスムーズに結成が決まったわけではありません。メンバー集めにはかなり苦労しました（というか現在進行形で苦労しています…）。

状況は常に一進一退でした。疲れて諦めようと思ったこともありましたが、投げ出さなかったから今こうしてチアができています。

他のメンバーや応援してくれる方々に支えられて、社会人チームは結成一周年を迎えました。

旭川市では唯一のチアリーディングチームなので、幸い結成当時からたくさん出演依頼をいただいています。未経験のメンバーがほとんどですが、週二回楽しく練習しています。

縁が縁を呼び、とんとん拍子でジュニアチームもできました。三十人弱の子供たちを相手に、週一回コーチをしています。

子供にはあまり慣れていないし、人に教えるほどの技術もあるかどうか…と最初は不安でしたが、子供たちはチアが大好きで目をキラキラさせて練習に臨んでくれるし、子供たちとの関わりは純粋に楽しいです。

「おんぶして」「だっこして」攻撃が続くとさすがに疲れますが（笑）

## ★チームとしての目標

まずはチアリーディングというスポーツのことを知ってもらって、地域の皆さんから愛されるチームになることです。

「チアやりませんか？」と誘うと、「興味はあるけど自分には無理…」という人は多いです。昔の自分もそうでしたが、興味はあるのに誤解で機会を逃すなんてもったいないと思います。

「チア=ミニスカートはいてポンポン持った女の子が踊るだけ」という誤解も今だ根強いように感じます。

私もチアのことをよく知らないうちは誤解していましたが、チアの演技を見て実際にやってみることで、その魅力の虜になってしまいました。

チアを見て興味を持ってくれる人を一人でも増やすことが、私に与えられた役目だと思っています。



- ◆北高13期 西館勝友
- ◆北高25期 栗栖伸晃
- ◆北高51期 三輪琴恵



### 「十三期の今更」の頃」



西館勝友  
(北高13期)

四十七回同窓会の開催おめでとうございます。三十六期当番期の皆さん本当にご苦労様です。本当に早いものです。我々十三期も卒業五十年の招待期となりました。五十五歳の時も百人以上が旭川に集結しました。七月の十三期会も、関東、関西、そして道内から旭川に集います。多分、前回位集まるだろうと予測していません。ですので、本番の八月の総会にはどれくらい参加できるのかわかりませんが、記念の年でもあるので、出来るだけ多くの方が参加するようにお願いしたいと思います。

東京や札幌からでも、すぐに同期が二十人位は集まり宴会が始まります。同窓の皆さんからは「十三期はすごいですね。」と、よく言われます。確かにそうです。四十五歳の当番期の時から今日までに、同期会は

九十回を数えます。多分これは、相当早い時期に同期の名簿が整備されたからだろうと思っています。これは、私個人の持論で色々な見識があると思いますが、大手の企業に在籍した方でもリタイアした後は、限られた年数で職域の仲間とは次第に縁が薄くなっていきます。しかし一方、多感な高校時代の友は生涯の友、一生の付き合いだと信じています。

同窓会総会も先輩、後輩の皆さんに多数参加をしてもらう為には、先ず同期の絆を固めることです。それが、総会を成功させる大きな要素で、ここからまた新たに同期の絆が強くなります。自分達もこの年齢になると、同期の友を失う時が来るようになっていきます。どんな死に面するよりも同期の死は本当に寂しいものです。最近、我々同期も顔を合わす度に、「俺も元気でいるからお前も元気でいれよ！」が、なぜか合い言葉のようになっていきます。お互い健康に気をつけて、今後も益々永い付き合いをしようではありませんか！そして仲良く！

### 「木造校舎の思い出」



栗栖伸晃  
(北高25期)

私が学舎を卒業してから早四十年近くが過ぎようとしている。在学中がちょうど木造校舎から校舎新築への過渡期の三年間だった。現在の校舎は私にとって、保護者の立場で何度か校舎に入った程度で、母校の校舎での思い出は、今はなき木造校舎である。

校舎新築が決定したこともあり、文化祭のテーマも二年生の時が「ボロ校舎のバード」、卒業年度が「オンボロ校舎危機一髪」と消えゆく旧校舎への思いが色濃く反映していたテーマだった。

当時の校舎は、当然木造二階建てであり、建て替えが必要ほど老朽化が進んでいた。廊下は所々で抜け落ち、新しい板を打ち付けたところだけが妙に目立っていた。天井は配線がむき出しで、煤けた天井を時折、

住み着いた鳩が飛び交い、校舎内で、「クック・ルー」と鳴く声が聞ける。何とものどかな校舎だった。

そのような古びた校舎だったが、四季折々に風情があつた。

教室の窓から花見ができ、散りゆく桜の花びらが教室に舞い込んできた春。

ポプラ並木から綿毛が降り、雪のように積もった初夏のグラウンド。

甲子園への地区予選が始まると、隣接する市営球場から飛び込んで来る音の数々。ウグイス嬢のアナウンスと応援団の声援、そしてラップと太鼓の音が空で遊んだ夏。

校門付近の前庭で年輪を重ねた木々の紅葉が美しかった秋。

とにかく寒かった、冬の教室。ダルマストーブをガンガン燃やし、周りだけが異常に熱くなるが、教室のはじめでは、コートを着て授業を受けた日が続いた厳冬期。配給の石炭を計画的に燃やすルールにもかかわらず、午前中で燃やしてしまい、頭を下げて用務員のおじさんに追加をもらいにいったら叱られたが、寒さには

耐えられなかった。

唯一、新しかった体育館で私自身は勉強もせずに、少ない部員で地区予選突破を目指して汗を流した三年間だった。当時、体育館は二つあり、私が所属していたバレー部とバスケット部そして剣道部は新しい体育館で活動していたが、羽球部と卓球部は薄暗い、旧体育館を使つての毎日。今、思うと大変申し訳なく思う。

就職は、まだオイルショックの影響もあり地元への就職が厳しい環境が続いていたが、幸い生まれ育った地元ですることができた。年齢のせいか仕事中に母校付近を通るたび木造校舎での思い出が懐かしく甦る。還暦まであとわずか。同窓会の幹事に再会を約した仲間達と会うのが今から楽しみである。

## 絆



三輪 琴恵  
(北高51期)

この原稿を書いているのは、締め切り一週間前。思えば高校時代も、テスト前日に徹夜で勉強したり、朝方に宿題を思い出して眠い目をこすりながら慌ててやったり、学校祭の教室展示の製作が間に合わず、まだ薄暗い早朝にみんなで登校して大慌てで作ったり。追い込まれてからやる集中力は高校生の方に身に付いた物の一つです。

皆さんは臨床検査技師という職業をご存知でしょうか。病院で血液や尿の検査をしたり、心電図や肺機能の調べたり、輸血のための検査や、検査で必要な採血をする専門職です。医者や看護師、薬剤師などと違い知名度の低い職業ですが、人の命に関わるとてもやりがいのある仕事です。私は北高を卒業した後、福島県の学校で資格を取り、北海道に戻って就職しました。昨年の東日本大震災。私はあの一週間後に、同窓会のため福島に行く予定でした。しかし、一週間前の三月十一日、一時過ぎに到着するはずだった仙台空港は津波に呑まれ、三年間過ごした福島は見えない放射能と余震で、見たことのない壊滅的な状況になりました。すぐに東北各県にいる友人に連絡を取ろうと試みたものの、回線の制限で繋がらず、不安がつるばかりでした。翌日から、青森から順に連絡が取れ、家や職場の倒壊にあつた人はいたものの、幸い全員の無事が確認できました。しかし、度重なる強い余震と放射能による外出制限、避難指示などで、同窓会は無期限延期になり、被災地に住む友人達は不安な日々を送っていました。もし一週間ずれていたら、私も津波で流されていたかもしれません。北高の友人からも、私が行く予定だったため、心配するメールをたくさんもらいました。

学生時代にできた友人は、私にとってとても大切な宝物です。今でも学生の頃と変わらずたわいもない話をしたり、お互いの仕事の話を話しながら、お互いの仲間は話合えるかけがえのない仲間です。そんな仲間達との絆をこれからも大切にしていきたいと思っています。

# 今春の進路指導部

## 進路指導部(全日制)

阿部 卓

平成二十三年年度の卒業生は、単位制導入後、四回目の卒業生になりました。単位制の進路指導では、一年次より、将来を見据えて、大学で何を学びたいのかを具体的に考えさせることから始まります。また、道内外の大学による進路説明会や出張講義なども実施、オープンキャンパス等への積極的な参加の奨励なども特徴としてあげられます。

この学年は、一年次のときから、細野学年主任を中心に、計画的に学習指導、進路指導に取り組み、着実に実力を伸ばしてきた学年です。その結果、過年度や道内の進学校と比較すると、後半にその実力を伸ばしてきました。また、学年の約半数が理系

【私立大学合格者数】(現役+過年度)

大学名	H19	H20	H21	H22	H23
藤女子大	2	1	6	12	11
北星学園大	25	19	8	7	9
北海学園大	38	16	26	36	29
天使大	5	4	3	5	1
北海道薬科大	5	1	1	3	2
酪農学園大	5	4	1	2	2
北海道医療大	9	12	8	8	17
日赤北海道看護大	1	1	6	1	
北海道文教大	8	5	6	13	7
獨協大	3	4	1	4	5
青山学院大	2	2	1	5	5
学習院大	1		1	1	1
慶應義塾大				3	
国際基督教大	1		1	1	
専修大	3	3	1	2	4
創価大	15	7	2	4	2
中央大	4	4	5	10	9
津田塾大	1	2	1	1	1
東海大	6	4	4	3	4
東京農業大	5	3	2		5
東京理科大	2	1		3	5
東洋大	5	4	3	3	2
日本大	2	4	3	4	3
日法政大	8	11	8	5	7
明治大	2	9	2	5	2
立教大	2	4	1	1	1
早稲田大	3		1	1	1
京都女子大	1		1		
同志社大	1	2		1	3
同志社女子大					1
立命館大	5	4	1	1	2
関西大		1			1
関西学院大			1		1
その他	55	63	53	56	61
私立大合計	225	195	156	201	204

【国立大学合格者数】(現役+過年度)

大学名	H19	H20	H21	H22	H23
北海道大	14	27	17	16	15
北海道教育大	32	18	23	29	22
室蘭工業大	3	2	5	5	7
北見工業大	5	1	1	2	4
小樽商科大	6	9	5	8	3
帯広畜産大	4	3	2		1
旭川医科大	7	7	4	3	5
弘前大	13	10	9	9	8
岩手大	2	6	1	1	1
東北大		2		3	3
秋田大	2	1	1		3
山形大	1	3	1	1	1
福島大			2	1	
茨城大	4	1			1
筑波大	1	1	1	1	1
宇都宮大	4	3		2	
埼玉大	2	3	4	2	
一橋大			1	1	1
電気通信大		2		1	
東京学芸大	1		1		
東京工業大		1			1
東京外語大				1	1
東京農工大			1		1
横浜国立大		1			2
新潟大	1	2	4	4	7
金沢大	1	4	2		6
信州大	3	3	3	2	2
静岡大		2		3	1
名古屋大					1
京都大	1	1	1		
京都工芸繊維大			1		
大阪大					1
奈良女子大				1	
広島大	1	2			1
高知大	3				
琉球大		2	1		
札幌医科大	2	3	2	1	2
公立ほくほく未来大			1		4
釧路公立大	5	4	4	3	5
札幌市立大	2	2		3	2
名寄市立大	5	4	5	2	5
高崎経済大	6		1	4	1
国際教養大	1	2			
首都大東京		1	2		2
横浜市立大	1			1	3
都留文科大	1	2	2	1	
神戸市外国語大				1	1
その他	8	10	9	3	7
国立大合計	142	146	116	115	130

※旭医大医学科 H21(2)、H22(2) H23(1)

【公務員・民間就職 現役合格者数】

種類	H19	H20	H21	H22	H23
国家公務員	1		2	1	
道職	3			3	1
市町村職員	3	1	2	4	
他の公務員	1	4		2	6
民間就職	4	2	2	1	



## 平成23年度 卒業生の進路

進路別人数

区分	合計			前年		
	男	女	計			
卒業者数	111	123	234	242		
進学希望者数	111	122	233	237		
進学者数	77	110	187	186		
進先内訳	大	道内	29	32	61	59
		道外	26	15	41	30
	私立	道内	5	21	26	34
		道外	15	22	37	34
	短大	道内	0	0	0	1
		道外	0	0	0	0
	大	道内	0	2	2	3
		道外	0	0	0	3
	専門学校	道内	1	0	1	1
		看護	道内	0	9	9
看護		道外	0	1	1	0
就職	その他	道内	2	7	9	5
	その他	道外	0	1	1	3
公務員	0	1	1	3		
民間	0	0	0	1		
自営：家事手伝	0	1	1	0		
その他(未定を含む)	34	11	45	52		

## 国立大学現役合格者数及び1クラスあたりの平均合格者数

卒業年度	H11	H12	H18	H19	H20	H21	H22	H23
学級数	8	8	6	6	6	6	6	6
合格者数	101	90	108	123	125	103	98	106
人/クラス	12.6	11.3	18	20.5	20.8	17.2	16.3	17.7

であり、例年と比較すると理系志望者が多いことも特徴でした。今春の大学入試センター試験の平均点は、二年連続で上昇しました。近年の傾向として全国的に理系人気がありますが、特に今年には理系の受験生にとつて得点しやすいセンター試験となったため、本校生にとつても、比較的志望校を決めやすい状況となりました。

本校の最終的な大学入試の結果は、一〇六名が国立大学の現役合格を果たし、一クラスあたり約一八名と、今年度も高い合格率を維持しました。これは単位制導入以降の平成十八年度から続いています。

また、今年度の卒業生についても、難関大学に果敢に挑戦し、北海道大学で十四名が現役合格をした他に、大阪大学文学部一名、名古屋大学工学部一名、東北大学理学部二名、法学部一名、東京外国語大学一名、筑

波大学一名など、多数の現役合格者ができました。私立大学でも、健闘しました。超難関大学の早稲田大学に現役合格したのをはじめ、明治大学、青山学院大学、中央大学、法政大学、津田塾大学、同志社大学、立命館大学など、研究したい学部のある首都圏や関西圏の大学や、より高度な研究ができる難関私立大学への進学者も確実に増加しています。

下に十年前と比較した表を示しましたが、単位制になって、現役の国立大学合格者数が確実に増加しているのがわかります。また、卒業生の進路先では、国立大学・私立大学を問わず道外への進学者が増加しており、近年の北高生の進路動向の変化が、如実にあらわれた学年であったと言えます。

## 難関国立大、医学科合格者数(現役)

大学名	H11	H12	H18	H19	H20	H21	H22	H23
北大(文系)	3	4	3	4	9	8	7	2
北大(医理系)	10	3	12	8	13	6	8	12
旭医大(医)			1			2	1	
東北大		1	1		2		3	3
筑波大	1	1	1	1	1	1	1	1
一橋大							1	1
東京外国語大	1		1		1			1
名古屋大								1
京都大					1	1		
大阪大								1
計	15	9	19	13	27	19	21	21

# 12部活動報告

## ●野球部

私たち野球部は渡部・高橋・笠井の3名の先生方のご指導の下、3年生13名、2年生11名、1年生17名、マネージャー1名の42名で活動しています。

過去の先輩方や指導者の方々のご尽力と各方面からのご支援のお陰で素晴らしい練習環境の中で日々練習させていただいております。

現チームの戦績ですが、昨秋の新人戦は1回戦で敗退し力不足を痛感しました。その悔しさを胸に秋以降そして雪の多かつた冬の間自分たちで議論し、時にはけんかもしながらチームがよりよい方向に向かうよう考えながら練習をしてきました。

その成果なのか待ちに待った今シーズンは練習試合でも白星がほとんどという好調さを維持しております。そんな中迎えた春の大会では1回戦で強豪旭川龍谷とあたり敗色濃厚かと思われた9回に同点に追いつき、再三のピンチをしのいで延長14回で勝利することができました。公式戦で龍谷から勝利したのは実に20年ぶりということから多くのOBの皆さんや関係者の方々喜んでいただき、それが私たちの更なるエネルギーとなつていきます。ただ、続く2回戦で同じ公立校の旭川西に延長10回で敗れてしまい、接戦を制する喜びの直後に、善戦をしても負けは負け、という悔しさも体験することになりました。この悔しさをエネルギーとして今、勝負の夏に向かおうとしています。抽選の結果、再び龍谷と対戦することになりました。相手は相応な思いを持

ってやってくると思いますが、私たちもそれに負けない強い気持ちと周到な準備によって再び勝てるよう精一杯頑張ります。ご声援よろしくお願いいたします。

## ●ソフトテニス部

ソフトテニス部の活動について、簡単に報告させていただきます。他校も含めて近年ずっと続いている傾向なのですが、中学までやってきたテニスを続ける生徒が減ってきたように思います。今年も経験者全員に声をかけましたが、なんとか4名の新入部員を迎えるにとどまっています。3年生が引退して、2年生がいなかったため、1年生だけの4名で活動を続けております。厳しいチーム事情ですが、これからも先輩達の伝統を引き継いでがんばりたいと思います。温かく見守って下さい。どうぞよろしくお願いいたします。

### 高体連支部予選結果 団体戦：予選リーグ敗退

×旭川北 0-3 旭川農業  
×旭川北 0-3 旭川東  
個人戦：成田・平野組 2回戦進出

## ●テニス部

テニス部は新チームに移行し、男子20名、女子6名で活動しています。ほとんどが初心者であり、基礎・基本から身につけなければならず、時間もかかりますが、そのぶん成長する様子が実感でき楽しみでもあります。

花咲テニスコートがすぐ近くにあるという地の利を生かし、技術はもちろんのこと、メンタル面の強化も意識し、困難に果敢に立ち向かい、逆境にも動じない人間に成長してもらいたいと考え、生徒達を指導しています。また未熟な面が多いですが、八月の夏季

大会、新人戦に向け、頑張っています。

## ●男子バレーボール部

昨年度の高体連支部大会では決勝リーグに進むことができず、悔しい思いをしたので、今年はシードをなくすことなく、全道大会でも勝てるチームを目指して練習してきました。支部大会では、決勝リーグで旭川工業高校と全道大会をかけた試合になりましたが、残念ながら2-1で負けてしまいました。しかし選手たちは、その後の試合でも自分達がやってきたバレーを展開し、最後の試合を勝って終わることができました。旭川市内のチームはどれも選手不足に悩まされています。北高校も例外ではなく、1年生の入部が2名ということで来年度は厳しい状況が予想されますが、高体連後、新チームもさらに上を目指して頑張りたいと思いますので、今後の活躍に注目していただきたいと思っております。

### ◇バレー祭

2回戦 旭川北 2-0 旭川明成  
準決勝 旭川北 2-1 旭川工業  
決勝 旭川北 0-2 旭川実業

### ◇旭川支部春季大会

2回戦 旭川北 2-1 旭川西  
準決勝 旭川北 0-2 旭川工業  
3位決定戦 旭川北 2-0 富良野

### ◇高体連旭川支部予選会

予選グループ戦 旭川北 2-0 旭川東  
決勝トーナメント戦 旭川北 2-0 旭川東栄  
決勝リーグ戦 旭川北 1-2 旭川工業  
旭川北 0-2 旭川実業

旭川北 2-0 旭川凌雲 第3位

## ●女子バレーボール部

1年生4名、2年生1名、3年生7名、マネージャー2名の計14名で、全道大会出場目指して頑張っています。高体連の大会では3年生が持てる力をフルに発揮して健闘しましたが、力が及びませんでした。試合結果ばかりでなくバレーの活動を通して得るものはたくさんあります。人間的にも大きく成長できるように今後も頑張っていきます。

### ○高体連大会結果

旭川北 2-1 旭農  
旭川北 1-2 富良野

## ●サッカー部

3年生が引退し、サッカー部は現在1年生21名、2年生11名、マネージャー3名の35名で日々の活動をしています。高体連では、3回戦で惜しくも南高校に敗れてしまいました。しかし、チームが一つになり、持てる力を一杯出し切って戦いました。しかし、負けたということは、足りない部分がまだまだあるということを実感し、この悔しさを忘れず、次の目標に向かって進み始めています。

3年生はここで引退となってしまいましたが、最後のミーティングでは、一人ひとりが後輩へ心のこもった熱い言葉を残してくれました。そういった言葉を励みにして、新たなメンバーで、また新しい北高サッカーをこれから作り上げていくつもりです。

平成24年度 第65回北海道高等学校サッカー選手権大会結果  
2回戦 北高 6-0 農業  
3回戦 北高 0-1 南高校

●卓球部

高体連旭川支部大会の結果は、男子学校対抗戦で昨年に引き続き準優勝、男子ダブルス、男子シングルス、女子シングルスでも全道大会の出場権を獲得することができました。

○高体連旭川支部予選結果

男子学校対抗 決勝リーグ

旭北0―3旭実 旭北3―2留萌

旭北3―2旭西

男子ダブルス

渡辺圭・渡辺悠

男子シングルス

渡辺圭、渡辺悠、米山

女子シングルス 椿澤

○高体連全道大会の結果

男子学校対抗

1回戦 旭北3―2苫東

2回戦 旭北0―3札光星

女子個人戦 S 椿澤 3回戦進出

●バドミントン部

バドミントン部は男子15名、女子12名の計27名で活動しています。男女ともに仲が良く、どんな辛い練習でも協力し、毎日明るく練習に取り組んでいます。

今年も、顧問の先生をはじめ、大学生やOB・OGの皆様など多くの方々の応援と支えをいただき、新人戦全道大会では男女ともに団体戦出場を果たし、男子団体では準優勝することができました。また、高体連全道大会では男子団体および個人戦に出場し、男子団体で北海道3位に入賞することができました。

今後、より一層練習に励み、より良い成績を残せるように、そして一番の目標であるインターハイ出場を目指して、みんなで切磋琢磨して日々努力していきたいと思えます。

高体連支部大会および各種全道大会

○北海道選手権大会

平成23年8月4日～6日 美瑛市

男子複 児玉・金澤 ベスト16

◇北海道高等学校新人大会

平成24年1月11日～14日 深川市

男子団体 準優勝

女子団体 2回戦敗退

◇国民体育大会北海道予選会

平成24年5月11日～13日 滝川市

男子複 児玉・金澤 2回戦敗退

◇高体連旭川支部大会

平成24年5月22日～24日 旭川市

男子団体 第2位

女子団体 第3位

男子複 児玉・金澤 ベスト8

女子複 浅野・長谷川 第3位

女子複 大垣・高田 ベスト8

男子単 坂内・児島 2回戦敗退

男子単 児玉 第3位

女子単 金澤 2回戦敗退

女子単 高田 2回戦敗退

女子単 児島 3回戦敗退

◇第64北海道高等学校選手権大会

平成24年6月12日～15日 江別市

男子団体 北海道 第3位

男子複 浅野・長谷川 2回戦敗退

男子単 児玉

●ソフトボール部

私たちソフトボール部は、部員全員が高校から始めた初心者ですが、打倒旭商、そして全道大会出場という大きな目標を達成するため、日々練習を積み重ねてきました。今年の一年生が入部する前は8人という少ない人数で、練習試合もできない中、冬はひたすらバットを振り続け、廊下や階段でも筋トレ、体力づくりに取り組み、つらい練習も乗り越えてきました。また、今年に入ってから練習試合では経験のない一年生が試合に出て、二・三年生はもちろん一

年生の技術も確実に高めてきました。

そしてやってきた高体連。残念ながら全道大会出場という目標は達成できませんでしたが、一回の表に先制点を取れたことはこれからの自信にも繋がりました。また、去年の新人戦では旭商を相手にヒット二本に抑えられてしまったのが、今回の高体連では大量のヒットを打ち、チャンスをつくることができました。これは、冬に毎日バットを振り続けて頑張った成果だと思えます。そして引退した三年生のねばる姿、流

れが悪くなっても声をかけて盛り上げる姿は私たち一・二年生に諦めない心を教えてくれました。

これからは、新チームとしての新たなスタートです。先輩方が教えてくれたことをしっかりと引き継ぎ、まずは新人戦、そして来年の高体連に向けて毎日の練習を大切にレベルアップしたいと思えます。また、いつも応援してくれている家族や私たちに関わる全ての人に感謝し、それを良い試合にして恩返しできるように、お互いに刺激しながら全力でがんばり、高め合えるようなソフトボール部でありたいと思えます。

●剣道部

今年の剣道部は「男子団体全道出場」を目標に支部大会に挑みました。

しかしながら、戦う気迫・戦う姿勢の欠如から、ここ一番の試合に負け、団体3位に終わりました。「あと一勝・あと一本」の重さを、つくづく感じる結果となりました。

男子個人では、安達が第4位、青山が第5位に入賞し、全道大会に出場することができました。

また安達に関しては、全道段別選手権大会二段男子の部で優勝したことは特筆に値します。

今後は1・2年生を中心に、この悔しさを

を忘れず、日々努力していきたいと思えます。自ら稽古内容を吟味し、行動に移すことが、剣道部員に望まれる一番の課題です。引き続きご支援・ご声援のほど、よろしくお願ひします。

高体連旭川支部大会

男子団体 第3位

男子個人 安達 第4位、青山 第5位

高体連全道大会(函館市)

男子個人 安達 3回戦敗退

青山 1回戦敗退

●陸上部

先日、本校出身の久保倉選手のロンドンオリンピック出場が決定されました。先輩の偉業に、本校陸上部員も大きな喜びと誇りを感じております。自分たちも高体連大会で、できるだけ高いステージまで勝ち進むことができるようにと、全道大会を前にして決意を新たにしているようです。さて、昨年は3名の全道優勝者を出すことができた充実したシーズンでしたが、今年も全道優勝はもちろん、インターハイでの入賞も視野に入れながらトレーニングをしている選手もおります。全道大会出場予定者14名全てが、全国大会まで進出できるように、一層頑張ってください。

高体連全道大会の結果

女子 富沢 400mHD 優勝、

100mHD 四位

(↓全国大会へ)

男子 下谷 1600mR 準決勝進出

400mHD 準決勝進出

●男子バスケットボール部

私達は、二年生十五名、一年生八名、マネージャー二名で足立先生の指導の下で活動しています。五月に行われた高体連では、実業高校、東高校を破り二年連続でベスト

4入りを果たすことができました。新チームは昨年よりチーム力が落ちているので、まずは体力作りをしつかりやり、チーム全体が成長できるようにしたいです。そして次の代へシードをつなげ、更にも上を目指し頑張ります。

●女子バスケットボール部

私達はブレイヤーが三年生四名、二年生八名、一年生三名、マネージャーが三年生一名の合計十六名で活動しています。

昨年に続いて二度目の全道出場を果たしましたが、今年こそ「全国出場」を達成します。「心をこめて」取り組むバスケットが、必ず栄冠を握ることを信じて頑張ります。

平成二十三年度成績

○キシイカップ

○秋季大会

○選抜旭川予選

○全道新人旭川予選

○旭川地区春季大会

○高体連旭川支部予選

●山岳部

山岳部は現在男子5人、女子4人、顧問の先生3人でにぎやかに活動しています。

平日には、天気図を書いたり、山登りの準備をしたりして、土日に山に登っていません。山登りでは、四季折々の景色や山頂へ辿り着く達成感を感じたり、夏にはバーベキューをしたり、冬にはしりすべりをしたり、山登りが終わった後は温泉に入ったりと山を満喫しています。

今年の地区大会では、本校もそうですが、前年度に比べてどの参加校も一年生が多く入ったこともあり、大変にぎやかな大会となりました。結果、男子隊は優勝することができ、全道大会に3年連続で出場することができました。以前から人数の関係で出

場できていなかった女子隊も、全道大会に出場することができました。3年生女子2人にとっては、この大会が最初で最後の大会となるので、万全の状態に挑んでほしいと思います。男子隊も良い結果を残せるようにがんばります。そして、全力で楽しんでいきます。

●アーチエリー部

アーチエリー部は、3年男子3名・女子2名、2年男子9名、1年男子5名・女子2名の21名で活動しています。

6月6日〜8日に高体連全道大会が「帯広の森」アーチエリー場で行われました。女子が2名しかいないため、団体戦に参加できませんでしたが、全道的に女子のアーチャーが少なくなっており、今年は6チームの参加でした。

男子団体は、予選6位で通過し、決勝トーナメントで初戦の札幌啓北商業高には、173-150で快勝しました。その後の準決勝、3位決定戦では敗れ、4位に終わりました。個人戦は、決勝トーナメントに7名が進みましたが、最高でベスト8で終わりました。ここ数年、精神面での弱さが目立ち、良い成績を残すことができません。

今後も練習に励み、精神面を鍛え、集中力を高め、全道チャンピオンを目指していきたいと思えます。

高体連が終了し、2年生中心の部活動になります。旭川アーチエリー協会の方々の協力を得ながら、過去の栄光を呼び戻したいと思えます。

9月に行われます秋季大会で上位になり、全国選抜大会の出場権を獲得することを目標に練習に取り組んでいます。シングルアウトドアターゲットラウンドですので、1年生にとっては、厳しい大会となりますが、筋力を強化して努力していきます。

●少林寺拳法部

昨年の夏は男女ともに団体で全国大会への出場を果たし、北海道の代表として立派な演武を披露することができました。残念ながら男子は予選を通過できませんでした。女子は本戦で9位に入ることができました。

今年度は一年生6名を加え、男子8名・女子9名の計17名で活動しています。3年生の男子がいない中、いろいろな不安を抱えてのスタートでしたが、女子は六月の高体連全道大会で、全国大会への出場こそ逃したものの団体で2位、総合でも2位という結果を残しました。新人戦では男女ともに全国大会に出場できるように今後も練習に励んでいきたいと思えます。

高体連全道大会(6月16・17日)俱知安結果(男子)

団体演武

山城②・森②・祐川②・星野②・柴田①・守山①・細野②・山田①組

山城②

守山①

みましたが準決勝で札幌北高の選手に惜敗その後3、4位決定戦で勝って3位となり8月に富山県で開かれる総文祭囲碁部門に北海道のメンバーとして出場することが決まりました。

●吹奏楽部

吹奏楽部は今年1年生13名を迎え、総勢43名で「聴衆に感動をあたえられる演奏をしよう」を目標に部員全員が「丸」となつて精力的に演奏活動を行っております。現在は北高祭や吹奏楽団体コンクール、第37回定期演奏会に向け毎日練習に励んでいます。平成23年度の活動内容および成績



高文連上川支部音楽発表大会 参加  
吹奏楽発表部門

北海道吹奏楽団体コンクール 参加  
旭川地区予選

高等学校A編成の部 銀賞  
北海道個人・アンサンブルコンクール  
旭川地区予選

フルート独奏 金賞  
トランペット独奏 銀賞  
打楽器五重奏 銀賞  
金管八重奏 銀賞

第36回定期演奏会主催  
第9回トリニティ・コンサート主催  
北海道音楽大行進  
アフターコンサート参加  
校内活動

入学式、新入生歓迎会、野球応援、北高祭、卒業式にて演奏

## ●美術部

今春の卒業生は、学年でたったひとりの部員でしたが、勉強と部活動を両立させ、人間的にも成長し、素直に感動する姿を見せるなど、後輩にとってもよい影響を残しました。

昨年度も高文連大会では、出品者全員が高文連大会出場権を獲得することができました。また、例年通り、生徒会誌の表紙を描かせて頂き、上川支部の選抜作品展にも新作で出品することができました。新入生歓迎行事の紹介ビデオのCGを使ったコマ撮りアニメーションもさらにさらにパワーアップさせることができました。

今年度も学校祭の広報・装飾などのデザインや制作にも全面的に協力できました。学校祭終了後は、夏休み明けの高文連支部大会への出品作の仕上げです。また、今年度は全道大会の当番支部でもあり、北高美術部生徒の考案した大会テーマやポスターが採用されるなど、すでに準備段階から大活躍しています。文芸大会のポスターも採用されました。

今年度の3年生は美術系進学志望ばかりではありませんが学業と制作を両立させ、高校生活を充実させ人間的な成長を図っています。下級生は秋から冬は、美術史や理論、デッサンや技法研究などの地道な勉強をする予定です。また、同じ部屋で勉強している部員以外の美術進学志望生徒の取り組みも良い刺激になっています。

これからも、日頃の成果を皆さんに喜んで頂ける形に還元できるように、精進したいと思います。

平成二十三年度の成績

高文連美術展・研究大会

全道優秀作品賞

- 3年 佐野 恭子
- 2年 宇草 未咲
- 2年 峯後 佳奈

## 全道入選

- 2年 合田 智聡
- 1年 山川 圭介

ネットトラブル根絶！

メッセージコンクール

上川管内高等学校ポスター部門

教育局長賞

- 2年 合田・峯後（合作）

## ●音楽部

部員数30名以上ですが、活動場所が狭いので、活動も思うようにできないのが悩みです。軽音楽部として、主にJポップなどの曲を演奏しています。演奏機会としては学校祭、図書室コンサート、クリスマスコンサートなどです。また学校祭のテーマソングも作っています。学校祭を盛り上げるために一役買っています。

## ●書道部

今年度は、三年生十二人、二年生二人、一年生七人で活動しています。また、中国からの留学生である戴雲達君も入部し、より一層賑やかな部になっています。現在は、高文連に向けて、各自作品制作に没頭しています。

大会がない時期は、勉強との両立を目指して、書道教室で黙々と作品を書いている一方で、部室では勉強をしている人もいます。この雰囲気は、書道部ならではのものだと思います。

今後この雰囲気大切に、部員一人一人となって充実した部活動を築いていこうと思います。

## ●演劇部

今年も芳野修一先生が、顧問となつていただき、ありがたいかぎりです。そして何よりうれしいことがあります。それは新二年生（3名）が台本作りを意識的に取り組

んでいることです。ようやく北高演劇部も自分たちでなんかしようという生徒が出てきました。

まずは、北高祭で大まかな形の芝居を上演して、それをもとに高文連の芝居を練り上げて行く、というスケジュールを組んで活動していきます。とはいってもはじめての取り組みですので、紆余曲折はさまざまあるでしょうが、生徒たちともども、すこしでもいいものになるよう、頭を柔らかくしてがんばる所存です。

幸い、3年生（2人）の援助と、本当はもっと欲しい1年生（1人）が協力して活動している様子は、面白い展開を見せています。顧問としては、3年生には進路実現にもがんばってほしいので、あまりきついことはさせたくないので、

しかし、何かを自分たちで表現することの楽しさ、協力し合つて一つのものを作り上げる、それも最初は何もないように思われたとしても、少しずつ積み上げて行つて、一つの形を作つて行く喜びを、存分に味わつてくれたらいいなと、期待しています。

## ●華道部

現在、二年生三名、三年生三名の計六名で毎週水曜日に活動しています。

少ない活動ながら、立岩先生のご指導の下、一人一人が着実に上達しています。

また、学年問わず仲が良いので、部内の雰囲気もとても良いです。

稽古後は、生けたお花を生徒玄関に展示して、たくさんの方々にご覧いただき、「きれいですね」とおっしゃっていただいとてもうれしく思うので、これからもさらなる上達を目指し、稽古に励みたいと思います。

学校祭では、稽古の成果を発揮するためにもいっしょに団結して、展示を創り上げます。

今年も、全員で浴衣を着て、華道教室を開催します。

展示をご覧いただくことで、日本の美しい文化に触れることができるので、ぜひ来場していただきたいと思っています。

また、インターネット花展にも積極的に出品していこうと思っています。

このように、私たちは、これからも先輩方によって六十年間守られてきた、旭川北高華道部、日本の華道の精神を守り続け、また、未来の後輩に伝えていこうと思います。

## ●茶道部

今年度は、一年生十一名の入部があり、二年生二十五名、三年生八名、計四十四名での活動が始まりました。（そのうち女子が三十八名、男子が六名です。）月曜日には技芸講師の立岩先生のご指導のもと、一生懸命お稽古に励んでいます。木曜日は自主練習で、三年生中心となり基本練習の席入りや帛紗さばき等の割稽古を行っています。表千家は男子と女子ではお手前が違うため、日々新鮮さを感じています。

七月に行われる学校祭は、日頃の活動の成果を披露できる唯一のお茶会です。五月からはそれに向け、完璧なお点前を披露するためにそれぞれが時間をみつけてはお点前の練習に励みます。

三年生は七月で引退し、八月からは二年生が中心となり部活動が行われています。

部員が多く、大変な面もあると思いますが、一年生と共に歴史ある北高茶道部の伝統を受け継いでいってほしいです。また、代々茶道部はとも仲が良いと周りの人たちが言うってもらえるので、そういう所も受け継がれてほしいと思います。

これからも茶道を通して、礼儀作法や人をもてなす精神を学び、心豊かな人間になれるよう、稽古を積んでいきたいと思っています。

●インターアクト部

私たちインターアクト部は、旭川北ロケットクラブのご支援のもと、ボランティア活動を中心とした様々な活動に取り組んでいます。

インターアクトは、インターナショナルとアクションを組み合わせた造語で、国際的な視野に立ち、ボランティア活動を通して地域社会に貢献することを目的としています。毎週の定例ミーティングで「自分たちができること」を部員同士で相談しながら、ボランティア活動に取り組んでいます。活動内容は次のとおりです。

①美化活動

- ・旭川冬まつり会場跡地の清掃活動
- ・春のごみのポイ捨て禁止運動への参加
- ・校舎内の清掃

- ・学校敷地内および周辺のゴミ拾い
- ②募金活動

- ・赤い羽根共同募金活動の実施ならびに赤い羽根街頭募金活動への参加
- ・あしなが学生街頭募金活動への参加
- ・FNSチャリティ募金活動実施

- ③地域との関わり
- ・旭山動物園障がい者と家族動物園特別鑑賞サポーターボランティア

- ・旭川冬まつり会場観光ボランティア
- ・おびつた祭り参加予定（8月）
- ④大会参加
- ・国際ロータリー第2500地区インターアクト地区大会（釧路市）参加

- ・高文連上川支部第5回ボランティア研究大会参加予定（10月）

これからも「身近なことからできる」ボランティア活動を中心に取り組んでいきたいと思っています。今後ともどうかよろしくお願いたします。

●文芸部

今年度は、三名の先輩を送り出し、残るは三年生二名、二年生一名の合計三名と、「部危うし！」という状況でありましたが、喜ぶべきことに、一年生が五名も、志を持って入部。八名での出発となりました。現在は、七月に発行する部誌の編集作業の真っ最中です。今年度は、全道大会が旭川で開催され、しかも、本校は旭川商業高校・西高校とともに、当番校の一翼を担うことになっており、自分たちの作品作りとともに、大会の成功に向けて、力を尽くしていこうと頑張っています！

○高文連上川支部文芸コンクール  
 短歌部門 優秀賞 高階 理紗  
 部誌部門 全道推薦 ↓ 全道 金賞

●理科実験研究部

こんにちは。まず始めに部員構成を紹介いたします。今年新たに一年生四人が加わり、三年生が二人、二年生が二人の合計八人となりました。昨年の三年生が引退してからは寂しくなっていた部室でしたが、一年生の加入後はとてもにぎやかになっています。部室を兼用している山岳部とも交流があり、いつも楽しく明るい空間になっています。

次に活動内容を紹介いたします。一年生は基礎実験、二、三年生はグループを作り、今秋の大会に向けて研究と実験を行っています。今年度は、過去の先輩の「ベルリン青」の研究を進展させた内容を主に取り組んでいます。一年生から三年生まで皆仲良く楽しく活動しております。

長期休暇中には、校外で公開実験と展示を行う予定になっています。毎年夏にはショッピングセンターで、冬には青少年科学館で実験をさせていただいています。大勢の方の前で実験をしたり、説明をしたりするのは、なかなか経験できないことですので、大切にしていきたいです。

右も左もわからない一年生だった僕も気づけばあと一年と少して引退です。直接お世話になった先輩にはもちろんのこと、先代の先輩が残してくださったもののおかげで大いに助けられました。僕もこの理研部の一員として、多くのものを先輩に残していきたいです。

●放送局

放送室に集い、毎日同じように発声練習を始める。コンピューターの前に座って、テレビやラジオの番組や行事の記録のビデオを編集する。生徒会執行部の生徒と、行事の進行の打ち合わせをする。マイクをセッティングして、明日の昼休みの校内放送のリハーサルを行う。こうした彼ら局員の日常は、大会の結果次第で変動する。

全道大会のプログラムを開くと、過去の前任者の白鳥先生が指導をしていた時代、北高放送局は主に番組制作において道内のトップを走っていた。札幌月寒高校から梶原先生が赴任して以来、再び本校は優秀な作品を作り始めた。全国大会を制する日も遠くはない。

また、アナウンスと朗読の個人発表部門においては、昨年度まで5年連続して全国大会に進出している。石狩地区以外の学校がこのような結果を残すのは極めて稀であるが、全国大会ではベストテンにあたる「決勝」にはすすんだためしがない。今年も全国大会に進出して、決勝進出の悲願を果たせるか？

地味な日常の積み重ねが驚きを産む。NHKホールに立つのは一見ごく普通の高校生かもしれないが、代わり映えのしない日常を高い目標を持って過ごした者だけが夢を叶える。

我が北高放送局が栄冠を手にする。そんな日を願って止まない。

●写真部

今年もまた新たな仲間を迎え、合計10名となった部員全員で日々、腕を磨くべく、シャッターを切っています。

フライング越しの世界を自分の思いが伝わるよう切り取る難しさを感じながらも、部員同士の交流や、文芸部との合同作品の制作を通して進路を見出し続けることで今後の活動がより密に、より活発になることを期待しています。

●生徒会

北高の生徒会は生徒による主体的な運営を目指して様々な活動に取り組んでいます。新学期が始まって7月の北高祭までは生徒会行事が目白押しです。放課後遅くまで残って、打ち合わせやリハーサルそして休日には会場設営と気を抜く時間がないほどです。しかし、行事が終わったときには達成感や充実感が待っています。さらに、自分たちが「楽しむ」のではなく参加する生徒のみならず「楽しんでもらう」のが私たちの目的です。そのための苦労は惜しまずこれからの北高祭に向けて準備を進めていきたいと思えます。

最近では新しい取り組みとして「エコキヤップ運動」などのボランティア活動や年末の「クリスマススイベント」を始めました。また他校との交流も行い岩見沢東高校・士別翔雲高校との交流会を開いてお互いの生徒会運営について話し合いの機会を持ちました。

伝統ある北高の生徒会活動を一層良いものにするべく、日々頑張っています。今後様々な場面で同窓会の皆さんのお力を借りる場面があると思えますので、どうか宜しくお願いいたします。

旭川北高 ◆ 同窓会役員名簿 ◆

事務局長 澤渡 泰人……………北二一

●旭川北高同窓会宗谷支部

顧問 山形 積治……………北八

西館 勝友……………北一三

八重樫和裕……………北一八

川島 崇則……………北一八

大川 勝人……………北一八

北塔 光昇……………北一八

浅井由美子……………北一八

尾崎 信彦……………北二五

渡邊 久男……………定三

遠藤 剛……………北一三

中村 悦郎……………北一六

市山 力三……………北一七

庄司 和晴……………北一八

池田 定博……………北一八

市川 陽一……………北二二

小枝 万美……………北三二

田中 充……………北二五

村本 定範……………北二五

富田 公裕……………北二五

大津 文雄……………北一八

富田 公裕……………北二五

文化部長 木村 公俊……………北二五

文化副部長 村上 史生……………北一八

山中いつ子……………北一九

鈴木 弥生……………北二五

平間 明鑑……………北二六

副幹事長……………九軒 勝志

幹事長……………瀬川 哲男

幹事長……………黒須 昌子

幹事長……………鈴木 紀明

幹事長……………中村 秀雄

幹事長……………谷中 則親

幹事長……………杉本 宗敏

副幹事長……………細谷美代子

幹事長……………栗原 利勝

副幹事長……………石田 邦光

幹事長……………小島大二郎

副幹事長……………山本 泰司

幹事長……………横山 直史

幹事長……………廣田 秀美

幹事長……………加藤 修

幹事長……………大川 勝人

幹事長……………鳴海 範子

副幹事長……………植村 俊幸

幹事長……………林 仁彦

幹事長……………石田 悟

幹事長……………菊地 且高

幹事長……………青山 隆之

幹事長……………小泉 英一

幹事長……………鈴木 弥生

幹事長……………煙山 泰也

幹事長……………山口 浩一

幹事長……………今宮 克明

幹事長……………原田 一志

●幹事名

中二 幹事長……………吾妻 充

副幹事長……………西村 広

副幹事長……………畠山 昇子

中三 幹事長……………谷口 孝

副幹事長……………竹内 範輔

中四 幹事長……………間 仁一

副幹事長……………石崎 一夫

(高一)

幹事……………北原 高男

(高二)

幹事長……………工藤 博視

副幹事長……………伊藤 努

北一 幹事長……………西野 宏

副幹事長……………伊林 寛

北二 幹事長……………林 徹男

副幹事長……………小川 幹雄

北三 幹事長……………干場 武司

北四 幹事長……………五十嵐 正

北五 幹事長……………波岸 順子

北六 幹事長……………阿部 信行

同窓会役員及び幹事名

北三十一	幹事長……西分 健二	北六十	幹事長……和賀 俊太	定二十七	幹事長……山中 敏行
北三十二	幹事長……澤田 俊哉	北六十一	幹事長……	定二十八	幹事長……日塔 浩之
北三十三	幹事長……武田 聡	北六十二	幹事長……	定二十九	幹事長……太田 房枝
北三十四	幹事長……飛弾野文彦	定一	幹事長……山崎 安光	定三十	幹事長……入野 直美
北三十五	幹事長……児玉 賢一	定二	幹事長……小泉 貢	定三十一	幹事長……上林山健次
北三十六	幹事長……江淵 賢一	定三	幹事長……	定三十二	幹事長……篠原 誠
北三十七	幹事長……相馬 隆司	定四	幹事長……谷口 省一	定三十三	幹事長……窪田 竜三
北三十八	幹事長……武田 要	定五	幹事長……小林 成吏	定三十四	幹事長……新見 稔
北三十九	幹事長……水口 貴浩	定六	幹事長……金山 紘一	定三十五	幹事長……西尾 悟
北四十	幹事長……富樫 明樹	定七	幹事長……森下 義治	定三十六	幹事長……
北四十一	幹事長……村田 朋輝	定八	幹事長……窪田 冠治	定三十七	幹事長……大橋 恵子
北四十二	幹事長……細山 崇	定九	幹事長……小野寺 勤	定三十八	幹事長……早川 立人
北四十三	幹事長……下本 康子	定十	幹事長……小林 輝雄	定三十九	幹事長……細田 勝己
北四十四	幹事長……	定十一	幹事長……千葉青次郎	定四十	幹事長……遠藤 智康
北四十五	幹事長……武田 奈央	定十二	幹事長……田村 篤	定四十一	幹事長……菅原臣一郎
北四十六	幹事長……上北 泰志	定十三	幹事長……神藤 茂晴	定四十二	幹事長……岡本 香織
北四十七	幹事長……長町 康隆	定十四	幹事長……松田 誠	定四十三	幹事長……渡辺加代子
北四十八	幹事長……松井 智弘	定十五	幹事長……深谷富美雄	定四十四	幹事長……日野 洋一
北四十九	幹事長……池田 謙治	定十六	幹事長……奥山 寿雄	定四十五	幹事長……
北五十	幹事長……阿部 好幸	定十七	幹事長……錦川 敏文	定四十六	幹事長……白田 由佳
北五十一	幹事長……宇井 辰徳	定十八	幹事長……堀井 敏明	定四十七	幹事長……
北五十二	幹事長……大友 健司	定十九	幹事長……千村 敦雄	定四十八	幹事長……
北五十三	幹事長……野田 仁哉	定二十	幹事長……	定四十九	幹事長……
北五十四	幹事長……楠美 拓也	定二十一	幹事長……小柳 智弘	定五十	幹事長……
北五十五	幹事長……追山 和彦	定二十二	幹事長……菅野 敏彦	定五十一	幹事長……
北五十六	幹事長……和賀 裕則	定二十三	幹事長……泉 誠	定五十二	幹事長……
北五十七	幹事長……中原 由貴	定二十四	幹事長……柴田 仁	定五十三	幹事長……
北五十八	幹事長……川西 雄太	定二十五	幹事長……川方 和人	定五十四	幹事長……阿部 貴大
北五十九	幹事長……	定二十六	幹事長……中原 泰司	定五十五	幹事長……

## 幹事の皆様大変ご苦勞様です

◎各期幹事に異動がありましたら同窓会事務局までご連絡ください。

【自 宅】〒070-0815 旭川市川端5条8丁目1-8 庄司和晴  
TEL(0166)51-5024 携帯電話 090-3773-2019

【勤務先】(株)サム TEL(0166)51-3434

当番期  
あいさつ



第47回同窓会実行委員長  
北高36期 石川 拓

『同窓の絆を日本の絆へ』  
私たち三十六期が当番幹事期となり、掲げたテーマです。

伝統ある母校同窓会の開催に向けて、これまで、同窓会本部役員の皆様をはじめ、三十五期の諸先輩方、そして会券販売・広告掲載のご協力をいただいた方々等、旭川市内外の様々な人の絆に支えられて、準備を進めて参りました。

みなさまのご協力に、心より感謝申し上げます。

同窓会の開催は、四十代半ばの当番幹事期が伝統と絆をリレーしながら、脈々と続いております。私たちは、人生の中盤を過ぎて、将来に漠とした不安を感じる年代でもありません。そうした時期に、幹事期として準備を進める過程で、同期の仲間や同窓の先輩とのつながりを再確認したり、再構築したり、励ましをいただく機会を得ることができました。

次期当番期  
あいさつ



第48回同窓会実行委員長  
北高37期 相馬 隆司

早いもので北高を卒業してから26年が経ちました。家族の成長で日頃から時の経過を感じていますが、最近はそのせいでしょうか、時の経過が早くなった気がします。

今年4月に次男が中学へ入学し、「黒の学ラン」を着て、元気に通学しています。横浜では「黒の学ラン」はあまり見かけず、間近で懐かしい学ランを見ると、北高時代を思い出します。北高在学中は吹奏楽部に所属し、3年間、良き先輩、良き後輩とともに、同じ目標に向かって練習に励んでいました。そんな中、強かった野球部の応援は楽しみのひとつでもありました。

当時の北高は、勉学、部活、遊び等々、すべての事に自由に打ち込め、それぞれの存在を否定せず、互いに尊重し合うことができる素晴らしい高校だったと思います。これがまさに北高の良き伝統であり、いまも続いているものと信じています。

自分は地元旭川を離れて16年が経ち、今は横浜で家族と暮らしていま

す。いまでは同級生と全くといっていい程、コミュニケーションもない状況のため、我が37期のみんながどこで何をしているのか、クラス会が開かれているのか、無知な状況です。

そんな中、当番期に向けて、人を集めることが本当に来るのか、また集まってくれるのか、正直、わかりません。まして、自分が旭川を離れ、準備にほとんど関わることができません。ただ、諸先輩方が築き上げてきた伝統ある北高同窓会を次期38期に良いかたちで引き継ぐことが、我々の使命であると考えています。

今後、来年の同窓会で多くの旧友との再会が果たせるよう、取り組んでいきたいと思っておりますので、諸先輩方におかれましては、お力添え又ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、第47回同窓会の御盛會と、旭川北高の益々のご発展を祈念いたしまして、次期当番期を代表しての挨拶とさせていただきます。

『同窓の絆を日本の絆へ』

それは、絆を深めることで、明日に進む力が湧いてくることを実感できる、貴重な時間でもありました。

これからも、伝統ある母校同窓会が、支え合う絆を実感する素敵な機会としてリレーされていくように、次につながる役割を、精一杯果たしたいと思えます。一回一回の幹事期の営みが、母校北高と同窓会の発展そして未来の誰かの絆につながることを願います。

一人一人の暖かな絆と結びつきが、不安な日本に、きつと、やわらかな希望をもたらすはずです。

まずは、本日の同窓会が、思い出深いものとなるよう、三十六期一同、心を尽くして努めて参ります。どうぞよろしくお願いたします。

あらためて、